

---

# 長浜市スポーツ推進計画

---

---

『スポーツの力で すべての人を笑顔に』

---

平成26(2014)年6月 策定

平成31(2019)年3月 中間見直し

長 浜 市

# 目 次

第1章 計画の見直しにあたって	1
1 見直し趣旨	
2 計画の位置づけ	
3 計画の期間と進行管理	
4 計画見直しにあたっての視点	
第2章 スポーツを取り巻く現状	3
1 社会情勢の変化と長浜市の動向	
2 長浜市のスポーツの現状	
第3章 めざす姿と基本方針	7
1 めざす姿	
2 基本方針	
第4章 今後6年間に取組む施策	
1 「する」スポーツ	8
Ⅰ 生涯スポーツの推進	
Ⅱ 競技スポーツの推進	
Ⅲ スポーツ環境の整備	
2 「みる」スポーツ	13
Ⅰ 大規模スポーツイベントの開催・誘致	
Ⅱ トップアスリートとの交流	
Ⅲ スポーツに関する情報の発信	
3 「ささえる」スポーツ	15
Ⅰ スポーツ関係団体の育成・支援	
Ⅱ 指導者・ボランティアの育成・支援	
Ⅲ スポーツ活動の顕彰	
4 「つなげる」スポーツ	18
Ⅰ スポーツ力で未来への絆づくり	
第5章 計画の推進について	20
1 数値指標の設定	
資 料	21
・用語説明	
・長浜市のスポーツに関する参考資料	

# 第1章 計画の見直しにあたって

## 1 見直しの趣旨

国においては、平成27(2015)年10月にスポーツ行政を一元的に行うスポーツ庁が設置され、平成29(2017)年3月には、新たに「第2期スポーツ基本計画<sup>※1</sup>」を策定されました。

県においても、スポーツを「する」だけでなく「みる」、「ささえる」楽しみ方も広め、元気な地域づくりにつなげる取組を進めていくために、平成30(2018)年に「第2期滋賀県スポーツ推進計画<sup>※2</sup>」を策定されました。

本市では、平成26(2014)年に「スポーツ推進計画」(以下、「本計画」という。)を策定し、しょうがいのあるなしにかかわらず、すべての市民がスポーツを通じて、笑顔で明るく健康な生活を送り、活気あるまち長浜の実現を目指して施策を展開してきましたが、本市のスポーツ活動の状況を見ますと、スポーツ施設の利用者数は増加しているものの、児童・生徒の体力・運動能力合計点は、国・県に比べ低い現状です。

こうした現状を踏まえて、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」(以下「東京2020オリンピック・パラリンピック」という。)、<sup>※3</sup>「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」が開催され、2024年には滋賀県で「第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会」(以下「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」という。)が開催されるこの時期をスポーツ振興の絶好の機会として捉え、子どもから高齢者までしょうがいのあるなしにかかわらず、すべての市民が生涯にわたりスポーツや運動に親しみ、心も身体も健康で過ごせるよう、スポーツ振興の取組を押し進めていきます。

スポーツには、人やまちを元気にし、心を豊かにする力があります。また、人と人の交流を促進し、地域の一体感や活力を生み、さらなる魅力あるまちづくりにつなげる力があります。スポーツの力によって、つながった「人と人」、「スポーツと地域資源」などの絆をまちの活性化につなげ、まち全体が活気に満ち、「笑顔あふれる長浜」、「未来の長浜」につないでいくために、本計画の見直しを行うものです。

## 2 計画の位置づけ

### (1) 法的な位置づけ

スポーツ基本法<sup>※4</sup>(平成23年法律第78号)第10条の「地方スポーツ推進計画」と位置づけられます。

### (2) 国及び県の計画との関係

国の「スポーツ基本計画」及び県の「滋賀県スポーツ推進計画」を参酌し、地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画です。

### (3) 本市の上位計画等との関係

「長浜市総合計画<sup>※5</sup>」を上位計画とし、本市におけるスポーツ推進の指針となる計画です。

また、「長浜市教育振興基本計画<sup>※6</sup>」、「健康ながはま21<sup>※7</sup>」、「ゴールドプランながはま21<sup>※8</sup>」などの関連計画とも連携した計画です。

### 3 計画の期間と進行管理

#### (1) 計画の期間

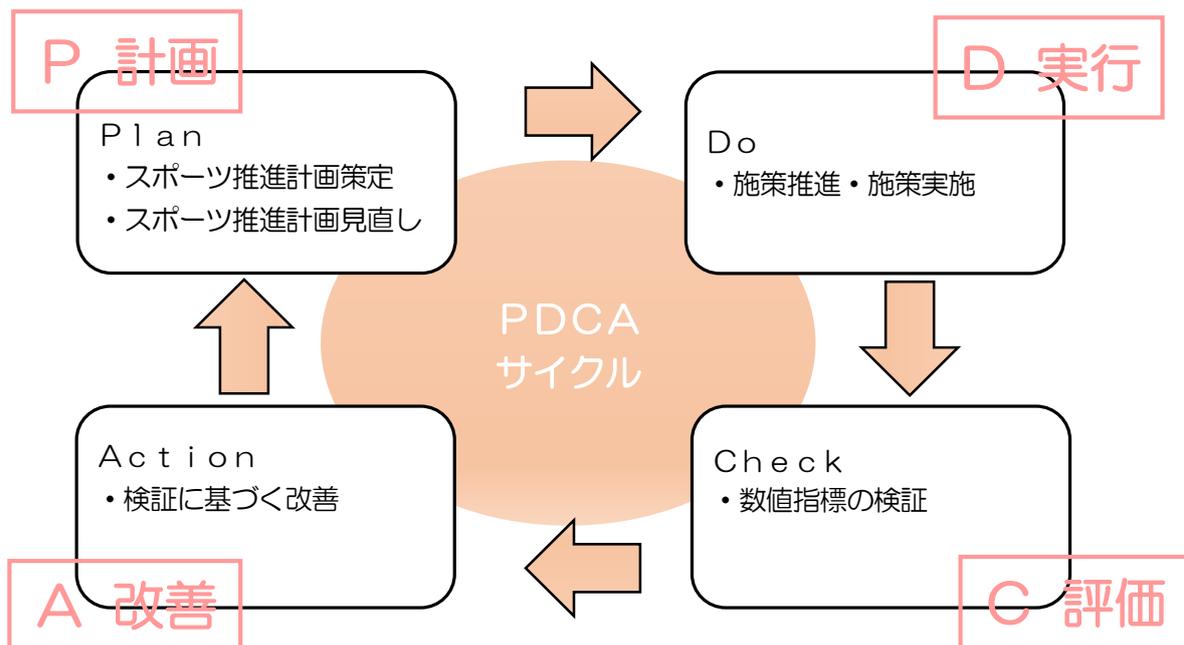
本計画は、平成 26(2014)年から概ね 10 年間で計画期間として策定しています。

なお、計画期間中であっても中間年次及び必要なときは見直すこととしており、今回、国のスポーツ基本計画、滋賀県スポーツ推進計画、本市の総合計画等との整合を図り、社会情勢の変化や計画の進捗状況を踏まえ、見直しを行いました。

見直し後の計画期間は、平成 31(2019)年から 6 年間です。

#### (2) 進行管理

本計画を着実に推進していくため、数値指標の検証を行い、適正な進行管理に努めます。また、「PDCA」サイクル<sup>※9</sup>でマネジメントを行い、効果的・効率的なスポーツの推進に努めます。



### 4 計画見直しにあたっての視点

(1) 国においては、平成 29(2017)年 3 月に「第 2 期スポーツ基本計画」を策定され、県においては、平成 30(2018)年 3 月に「第 2 期滋賀県スポーツ推進計画」を策定されました。また、本市においては、「長浜市総合計画」を平成 29(2017)年 3 月に策定したことから、これら上位計画との整合を図るため、見直すこととします。

(2) 「平成 30 年度市民満足度調査」、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査<sup>※10</sup>」、「健康ながはま 21 策定にかかるアンケート調査」等から、数値指標の検証を行い、国・県の数値指標を踏まえたうえで、本市の数値指標を見直すこととします。

(3) 「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」、「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」や「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」等の大きなスポーツイベントが、連続して開催されるこの時期をスポーツ振興の絶好の機会と捉え、さらなる、スポーツの振興やスポーツを通じた地域の活性化を押し進めるため、見直すこととします。

## 第2章 スポーツを取り巻く現状

### 1 社会情勢の変化と長浜市の動向

2019年には「ラグビーワールドカップ2019」、2020年には「東京2020オリンピック・パラリンピック」、2021年には「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」が開催され、大きなスポーツイベントが連続して開催される「ゴールデン・スポーツイヤーズ」を迎えます。さらには、2024年には滋賀県において、「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」が開催され、本市においても「ソフトテニス」、「柔道」、「相撲」の3つの正式種目の競技会場となることが内定しています。

今後、トップアスリートによる一流のプレーに触れたり、本市の選手が活躍する姿に感動したりするなど、スポーツを「する」だけでなく「みる」、「ささえる」楽しみ方も含め、スポーツに参画する機運の高まりが期待されています。

併せて、様々な競技において、ドーピング、パワーハラスメント、暴力行為などの問題事案が相次いで発生していることから、スポーツ庁長官のメッセージにもあるように、今こそ改めて、「スポーツ・インテグリティ<sup>※11</sup>（誠実性・健全性・高潔性）」を高めていく必要があります。

また、日本は、今までに経験したこともない人口減少時代に突入しており、本市においても、平成17(2005)年にピークを迎えて以降、現在も人口減少が止まらず、自然動態、社会動態ともに本格的な人口減少時代に入りました。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、本市の将来推計人口は、平成22(2010)年に12.4万人であった人口が、2060年には8.5万人まで減少し、本市の高齢化率（65歳以上人口比率）は、2060年には37.4%まで上昇することが見込まれています。

本市においては、「長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、2060年の人口規模10万人の維持及び人口構造の若返りを目指して施策を展開しているところです。

スポーツ振興に加え、地域資源を生かした交流人口の拡大に、「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の開催は絶好の機会であり、まちの活性化につなげていくことが求められています。

### 2 長浜市のスポーツの現状

すべての市民が、明るく健康に過ごすために「スポーツでいきいき長浜づくり」をめざす姿として、基本方針を定め具体的な施策を展開してきました。

また、本計画を着実に推進していくため、基本方針ごとに具体的な指標を定めています。

今回見直すにあたり、「平成30年度市民満足度調査」、平成29(2017)年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」、「健康ながはま21改正に伴うアンケート調査(H30実施)」等の結果から、指標の状況把握を行い、本市のスポーツ活動の現状について検証し、本計画の指標設定や取組につなげていきます。

#### (1) 子どものスポーツ活動の充実と生涯スポーツの推進

- 幼少期から少年期にかけての運動・スポーツ体験は心身の健全な発育・発達に大きく影響を与えるとともに、成人後の健康保持や豊かなスポーツライフを築く基礎となるため、幼少年期対象の運動あそび、スポーツ教室の推進、スポーツ少年団の加入促進に取り組んできました。また、児童・生徒の体力・運動能力向上のためには、学校体育や保健体育の授業を中心に楽しさや喜びを感じることができる運動やスポーツ活動を数多く体験することが大切なため、小学校における1日30分運動やフラッグフットボール<sup>※12</sup>、ロープジャンプ大会等を推進してきました。

しかしながら、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査(H29)」によると、本市の小学5年生は、握力、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げで男女とも県平均を

上回っているものの、体力合計は男女とも国・県に比べ低い状況です。また、1週間の運動やスポーツの実施時間は、土日は男女とも国・県より多いものの、総実施時間では男女ともに国・県より少ない状況です。一方、運動やスポーツをすることが、「好き」（「やや好き」含む）と答えた児童は、男女とも8割以上あり、小学校入学前から体を動かすことが好きだった児童は、入学後も好きでいる傾向にあるため、幼児期からの運動あそび体験は大変重要と考えます。加えて、学校や地域でのスポーツ活動やスポーツ少年団等の活動により、スポーツを通じて感動体験ができる機会を増やしていくことが必要です。

- 少子化が進んでいる地域においては、団体でのスポーツ競技ができない地域も出てきており、地域を越えた大きなエリアで、団体スポーツの体験ができる環境を整えていくことが求められています。

指 標	策定時 (H25)	目標 (H31)	現時点 (H29)
子どもの1日の運動・スポーツの実施時間（授業以外） 60分以上の割合 【小学5年生】	男子 62.3% 県 68.3% 国 72.1% 女子 40.1% 県 45.3% 国 48.2%	男子 70% 女子 46% 以上	男子 594.4 分 県 605.0 分 国 623.2 分 女子 354.4 分 県 352.1 分 国 377.0 分

※全国調査の質問項目がH26から変更され、進捗状況を把握することができなくなったため、1週間の運動・スポーツ実施時間を取り上げて、「全国」、「滋賀県」と「本市」の比較で示しています。

- 年齢や性別、しょうがいのあるなしにかかわらず、誰もが生涯にわたって日常的にスポーツに親しみ、楽しむことができるまちを目指し、「びわ湖長浜ツーデーマーチ」や「エンジョイスポーツ大会」に加え、親子・ファミリースポーツ教室、健康増進を目的とした「ラジオ体操・健康体操」等を推進してきました。
- 「平成30年度市民満足度調査」によると、「運動やスポーツを行う頻度」について、週に1日以上スポーツを行っている人は40.1%あるものの、ほとんど行っていない人も42.5%もある状況です。性別では女性が若干低いものの、年齢別では40歳から44歳までが最も低く、若い年齢層に加え45歳以降は年齢層が高くなるにつれて運動頻度も高まる傾向にあります。また、「どうすれば運動しようと思うか」とたずねたところ、「運動をする余裕ができる」が20.1%で最も高く、次いで「仲間・友人と互いに誘い合ったり、励ましあえる環境」の13.4%でした。忙しくて運動やスポーツにかける時間が少ない中でも、気軽に取組ことができる運動プログラムの普及やスポーツをする機会の提供、情報発信などによりスポーツ実施率の拡大を図る必要があります。

指 標	策定時 (H25)	現時点 (H30)	目標 (H31)
成人の週1回以上のスポーツ実施率	42%以上	40.1%	50%以上

## (2) 「する・みる・ささえる（育てる）」身近なスポーツ環境の充実

- 市民の誰もが、身近な場所でいつでもスポーツに接することができ、スポーツを生活の一部として楽しむことができるまちを目指し、身近な場所で気軽にスポーツに親しむ機会を提供できる総合型地域スポーツクラブ<sup>\*13</sup>を市内8地域に設置するとともに、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を立ち上げ、地域に密着したスポーツ環境づくりに努めてきました。

しかしながら、「平成30年度市民満足度調査」によると、総合型地域スポーツクラブの認知度は30.4%にとどまっており、決して高いとはいえない現状です。総合型地域スポーツクラブでは、地域に密着したスポーツ教室等を開催しており、総合型地域スポーツクラブの充実と情報発信が今後の課題と言えます。

指 標	策定時 (H25)	現時点 (H30)	目標 (H31)
総合型地域スポーツクラブ設置数と認知度	市内 4 団体 認知度 29.6%	市内 8 団体 認知度 30.4%	市内 9 団体 認知度 45%以上

- 本市では、県が実施している「次世代アスリート発掘育成プロジェクト<sup>※14</sup>」に参加できる子どもたちの育成と体力向上のために、「ジュニアアスリート育成プログラム<sup>※15</sup>」を実施してきました。また、長浜市スポーツ協会<sup>※16</sup>を通して、各競技団体の支援をしてきましたが、競技者の高齢化に加え新規加入者も伸び悩んでおり、競技人口の減少が大きな課題となっています。
- 県民体育大会についても、平成 25(2013)年の 7 位から平成 29(2017)年は 9 位に後退しています。

指 標	策定時 (H25)	現時点 (H29)	目標 (H31)
県民総スポーツの祭典 <sup>※17</sup> 県民体育大会における総合順位	10 位 (H24) 7 位 (H25)	9 位	5 位 以内

- 本市では、気軽にスポーツを楽しむ場所を確保するため、市内にある 38 のスポーツ施設の老朽化対応や耐震整備など適正な管理に努めるとともに、効率的・効果的な運営を図ってきました。今後も適正管理に加え、スポーツ活動の習慣化を進めるとともに全国規模の大会誘致にも取り組み、さらなる施設の利用促進を図る必要があります。
- 市民の身近な生活圏にある学校体育施設を有効活用するため、市内の 37 の小中学校の 88 施設の開放事業に取り組み、スポーツ少年団をはじめクラブチームやグループなど地域の皆さんのスポーツ活動の拠点となるよう学校との連携を進めてきました。平成 29(2017)年度は、249 団体の登録がありましたが、スポーツチームの減少から登録数も減りつつあります。
- スポーツ施設の利用者数は、平成 29(2017)年度で市民体育館が 85,518 人、市民プールが 54,644 人、市民庭球場が 38,665 人と多くの皆さんに利用され、トータルでは 676,934 人と平成 31(2019)年目標の 9.1%増となっています。

指 標	策定時	現時点 (H29)	目標 (H31)
スポーツ施設利用者数 ※学校体育施設開放事業利用者除く	587,656 人	676,934 人	620,000 人 以上

### (3) スポーツを通じた地域の活性化

- 地域特性を生かしたスポーツイベントの開催を通じて、地域の一体感や活力を醸成するとともに笑顔で明るく活気あるまちづくりを目指し、「びわ湖長浜ツーデーマーチ」、「長浜市あざいお市マラソン」、「奥びわ湖健康マラソン」、「余呉湖健康マラソン」、「琵琶湖・長浜オープンウォータースイムレース」などのスポーツイベントが開催されています。また、総合型地域スポーツクラブや（公財）長浜文化スポーツ振興事業団<sup>※18</sup>においても、各種のスポーツ教室が開催されています。

しかしながら、「平成 30 年度市民満足度調査」によると、スポーツ関連イベントの年 1 回以上の参加頻度については、「0 回」と回答した人が 85.0%あり、逆に「10 回以上」と回答した人はわずか 2.2%で、参加者が固定傾向にあると考えられます。性別では大きな違いは見られませんが、年齢別では 25 歳から 29 歳と 50 歳から 54 歳の参加頻度が低いほか、年齢層が高くなるにつれて参加頻度が高くなる傾向にあります。

- 「長浜市あざいお市マラソン」については、参加者が6,000人を超える大きな大会に成長してきましたが、各スポーツイベント・教室の情報発信に加え、身近で気軽に取り組める教室や仲間を募ってチームで参加できる大会など、多くの市民がスポーツに親しめる工夫が必要です。

指 標	策定時 (H25)	現時点 (H30)	目標 (H31)
成人の年1回以上のスポーツ事業（教室やイベント等）の参加率	36.2% (H25)	15.0%	40%以上

- 市民のスポーツイベントの満足度については、「びわ湖長浜ツーデーマーチ」及び「長浜市あざいお市マラソン」の参加者アンケートによると、5割以上の参加者が満足している状況です。

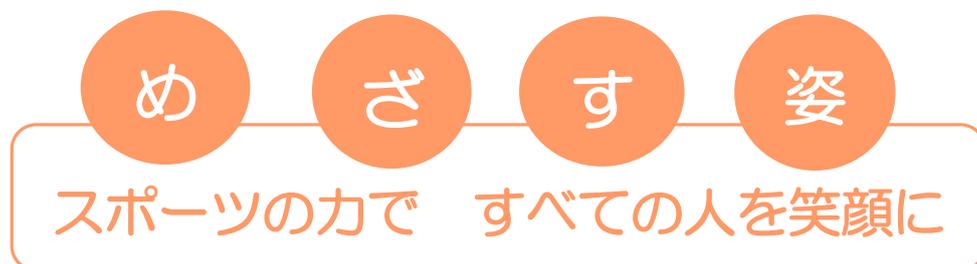
ボランティアを含め、大会スタッフが楽しんで参画している大会ほど「おもてなし」の心で接することができ、参加者にも伝わることで満足度も高くなると考えられます。スポーツイベントは参加者と大会スタッフ・ボランティアがともに楽しめるイベントに成長させていくとともに、スポーツイベントの開催には多くのボランティアを必要とするため、スポーツボランティアの育成が、今後の課題と言えます。

指 標	策定時 (H25)	現時点 (H29)	目標 (H31)
市民のスポーツイベント満足度数 （「満足している」の回答） ※参加者へのアンケート	新規	55.4%	30%以上



## 第3章 めざす姿と基本方針

### 1. めざす姿



すべての市民が、自ら積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得るとともに、スポーツを通じて、生涯にわたり心身ともに健康な生活を送ることで、笑顔にあふれた活気あるまち長浜の実現を目指します。

### 2. 基本方針

めざす姿である「スポーツの力で すべての人を笑顔に」の実現に向け、年齢や性別、しょうがいのあるなしに関わらず、すべての市民が「する」、「みる」、「ささえる」の3つの視点からスポーツに親しみ、笑顔で明るく健康な生活を送ることができるよう、計画的に施策を展開していきます。

さらに、スポーツがもつ多様な力によりつながった「人と人」、「スポーツと地域資源」などの絆をまちの活性化につなげるため、新たに「つなげる」を4つ目の視点として加え、すべて人を笑顔にする長浜の未来へとつなげていきます。

#### する

- I 生涯スポーツの推進
- II 競技スポーツの推進
- III スポーツ環境の整備

#### みる

- I 大規模スポーツイベントの開催・誘致
- II トップアスリートとの交流
- III スポーツに関する情報の発信

#### ささえる

- I スポーツ関係団体の育成・支援
- II 指導者・ボランティアの育成・支援
- III スポーツ活動の顕彰

#### つなげる

- I スポーツの力で未来への絆づくり

## 第4章 今後6年間に取組む施策

# 「する」スポーツ

### I 生涯スポーツの推進

#### ◆現状と課題

- 乳幼児期から少年期にかけての運動・スポーツの体験は、心身の健全な育成・発達に大きく影響を与えていると言われています。生涯にわたって「スポーツが好き」、「体を動かすことが好き」と言える子どもを育成するためには、乳幼児期からスポーツに親しむ習慣や意欲、能力を育むことが求められています。
- 過疎が進んでいる地域において、団体競技の授業や部活動ができない学校も出てきており、学区を越えた大きなエリアで団体スポーツの体験ができる環境を整えていくことが求められています。
- 学校の運動部活動や地域のスポーツクラブ（スポーツ少年団含む）には、男子は約7割、女子は約5割の児童が入っており、入ったきっかけは、男女とも「自分からすすんで」が一番多く、次いで「家の人にすすめられたから」、「友達にさそわれたから」となっています。
- 高齢者の健康増進や介護予防として転倒予防教室などが開催されています。教室開催後も運動を継続し、元気で明るく生活できるような取組が必要です。
- ヨガ教室をはじめとする各種教室は、女性の参加率が非常に高い状況ですが、授乳室やキッズスペースの設置など、参加しやすい環境整備も求められています。
- いくつかの総合型地域スポーツクラブでは、しょうがいのある人を対象とした「カヌー教室」、「ポッチャ」、「電動車いすサッカー大会」などに取り組んでいますが、スポーツ指導者の育成やさらなるしょうがい者スポーツの普及促進のためには、しょうがいのある人が利用しやすいスポーツ施設の環境整備を進めていく必要があります。
- 県内の大学と連携した「ながはまスポーツキッズフェスティバル<sup>※19</sup>」は、参加した子どもたちや保護者等にも好評を得ており、子どもたちの運動あそびのきっかけづくりとして、参加者の拡大を図っていく必要があります。
- 大学の持っているスポーツに関する専門知識を本市のスポーツ振興につなげていくような取組が必要です。

#### ◆施策

##### 1. 乳幼児期からの楽しい運動あそびの充実

学習意欲や活動の基礎として必要な集中力や記憶力を養うために、運動あそびを取り入れた活動を充実します。また、幼少年期対象のスポーツイベント・スポーツ教室の開催、「ながはま鬼ごっこ<sup>※20</sup>」の普及など、多様な運動あそびやスポーツの楽しさを体験できる機会の充実を図ります。

- 就学前教育における「運動あそび推進事業<sup>※21</sup>」の取組
- 幼少年期を対象とした「ながはまスポーツキッズフェスティバル」の開催
- 幼少年期スポーツ教室の開催
- 「ながはま鬼ごっこ」の普及

## 2. 学校でのスポーツ活動とスポーツ少年団等活動の充実

子どもたちが生涯にわたってスポーツに親しむ習慣や意欲、能力を育むとともに、健全な生活習慣を身に付けるため、学校等におけるスポーツ活動を通じて「健やかな体」づくりに取り組みます。また、子どもたちの体力向上を図るために、学校での休み時間等に十分な運動ができる環境づくりを進め、生涯にわたって「スポーツが好き」、「体を動かすことが好き」と言える子どもの育成を目指して、体育科学習の改善、運動部活動の充実を図ります。

さらに、地域間の交流やスポーツ関係団体・大学等との連携を深め、学校体育や運動部活動・スポーツ少年団への支援の充実を図ります。

- 小学校での「1日10分運動<sup>※22</sup>」の推進
- 小・中学校を対象とした「新体カテスト」の実施
- 中学校・高等学校等の運動部活動への支援
- スポーツ少年団等の活動の充実と加入促進
- 「フェアプレイ宣言<sup>※23</sup>」の推進

## 3. 中高年のスポーツ活動の推進

中高年は、仕事や地域等との関わりなどで、運動・スポーツ活動を行う時間の確保が難しく、メタボリック症候群や生活習慣病の健康リスクが高まる年代となります。生活習慣病等の予防のために、個人の体力や生活リズム、それぞれの興味、関心や目的に応じた多様なスポーツ活動ができるよう、運動・スポーツの参加機会を提供していきます。



- 市民参加型のスポーツイベントの開催
- 総合型地域スポーツクラブ等によるスポーツイベント・スポーツ教室の開催
- 健康増進を目的とした「健康づくり教室」、「健康体操」、「生活習慣病予防教室」等の推進
- 「スポーツプラス10運動<sup>※24</sup>」の推奨
- 子どもから高齢者までの世代間交流の場の充実
- 高齢者が参加しやすいニュースポーツの普及
- 高齢者の交流、体力の維持、健康増進を目的としたスポーツ活動の支援

## 4. 女性のスポーツ活動の推進

女性の運動・スポーツに親しむ機会を増やすために、友人や家族と参加したり、活動しやすい時間帯や場所でのスポーツ教室の開催など、気軽に楽しめるスポーツ活動の充実を図ります。

- 女性がスポーツ活動に参加しやすい環境整備（授乳室・キッズスペース等の設置）
- 女性が参加しやすいスポーツプログラムの提供

5. しょうがいのある人のスポーツ活動の推進  
しょうがいのあるなしにかかわらず、すべての人がスポーツ活動に取り組めるよう、スポーツ推進委員※25、長浜市スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、(公財)長浜文化スポーツ振興事業団と連携し、しょうがい者スポーツ活動の推進に取り組みます。



- しょうがいのある人を対象としたスポーツイベントの参加促進・支援
- しょうがい児(者)水泳教室開催の支援
- しょうがい者スポーツ指導者※26・ボランティアの育成
- しょうがいのある人が使用しやすい環境整備

6. 大学との連携によるスポーツ活動の推進

本市と連携協定を締結している、びわこ成蹊スポーツ大学と協働し、大学の持つスポーツに関する専門知識を活用しながら、ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツプログラムの構築を進めます。

- ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツプログラムの構築



## Ⅱ 競技スポーツの推進

### ◆現状と課題

- 子どもたちの発育段階に応じた運動能力の向上のため、現在、大学と連携しながら取り組んでいる「ジュニアアスリート育成プログラム」をより工夫をしながら、実施していく必要があります。
- 高等学校の全県一区制度により、優秀なスポーツ選手が市外に流出し、選手強化が困難になってきています。
- 各競技団体の選手・指導者の高齢化に加え、新規加入者も伸び悩んでおり、競技人口の減少が大きな課題となっています。

### ◆施策

#### 1. 競技スポーツ選手の育成支援

競技力の向上において、5年後の「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」は絶好の機会であり、長浜市スポーツ協会、(公財)長浜文化スポーツ振興事業団と連携し、競技スポーツ選手の発掘・育成に取り組みます。

- 「ジュニアアスリート育成プログラム」の実施
- 「ながはまスポーツ夢プロジェクト<sup>※27</sup>」の実施

#### 2. スポーツ団体への支援

競技力向上及び競技人口拡大のため、長浜市スポーツ協会を通じて、各スポーツ団体の活動を支援します。

- 各スポーツ団体の活動支援



### Ⅲ スポーツ環境の整備

#### ◆現状と課題

- 現在、建設中の（仮称）北部地域総合体育館は、2024年に滋賀県で開催される「第79回国民スポーツ大会」の柔道の競技会場として活用しますが、北部地域のスポーツ・健康づくりの拠点として、だれもが安全で快適に利用できる施設とすることが重要です。
- 市内には合併前の市町単位に38のスポーツ施設が点在しており、適正管理と併せて、老朽化や耐震状況などの実情を踏まえながら「長浜市公共施設等総合管理計画<sup>※28</sup>」に基づき、施設の再配置を進めていくことが必要です。
- 市民の身近な生活圏にある学校体育施設を有効活用するため、市内の37の小中学校の88施設の開放事業に取り組んでおり、地域スポーツの推進のために、事業を継続していく必要があります。

#### ◆施策

##### 1. 「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」に向けた施設整備

「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の会場や地域のスポーツ拠点としてのスポーツ施設の整備を進めます。

- （仮称）北部地域総合体育館の整備
- 「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の会場施設の整備

##### 2. 身近なスポーツ活動の場の提供

市民が身近な場所でスポーツに親しみ、元気で明るい生活ができるように、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツや運動を気軽に楽しめる、安全・安心なスポーツ活動の場の提供を推進します。



- スポーツ施設の適正管理及び利用促進
- 学校体育施設開放事業の推進
- まちづくりセンターの活用

##### 3. 効率的・効果的なスポーツ施設の整備・検討

市内のスポーツ施設について、「長浜市公共施設等総合管理計画」に基づいて、施設の利用状況や市域全体のバランス、集約の可能性などを勘案し、再配置を行います。また、サポーター制度の導入や近隣市町、民間企業との連携も視野に入れた施設整備のあり方を検討します。

- 「長浜市公共施設等総合管理計画」に基づく施設の再配置
- 「長浜市協働利用施設サポーター制度<sup>※29</sup>」導入の推進
- 近隣市町、民間企業との連携も視野に入れた施設整備のあり方の検討
- ネーミング・ライツ<sup>※30</sup>等の検討

# 「みる」スポーツ

## I 大規模スポーツイベントの開催・誘致

### ◆現状と課題

- 5年後に滋賀県で開催される「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の認知度はまだまだ低く、「する」、「みる」、「ささえる」立場で多くの県民が参画するスポーツイベントとするため、県及び近隣市町とも連携し、周知活動を展開する必要があります。
- トップアスリートや技術力の高い選手のプレーを間近で見て、肌で感じることは、子どもたちに夢や希望を与えるとともに、競技者や指導者の技術力向上が図れ、多くの市民のスポーツへの関心を高める機会となります。「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」はもちろんのこと、全国規模の大会誘致に積極的に取り組むことが求められています。

### ◆施策

#### 1. 「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の開催

滋賀県で開催される「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」では、「ソフトテニス」、「柔道」、「相撲」の本市での開催が内定していますが、他の競技種目についても積極的な開催誘致に取り組みます。

- 「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の周知
- 「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の競技種目の開催誘致
- 開催競技の円滑な運営

#### 2. 全国規模の大会誘致の促進

本市は、日本のほぼ中央に位置しており、車や電車でのアクセスも良いほか、16面を備えた砂入り人工芝のテニスコートや全天候型の長浜バイオ大学ドームなど恵まれたスポーツ施設を有しています。加えて、風光明媚な豊かな自然と多くの歴史的な遺産も有しており、スポーツと併せて観光地めぐりを楽しむなど、これら地域特性の強みを生かして、積極的に全国規模の大会誘致に取り組みます。



- 「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」開催会場を活用した全国規模の大会の積極的な誘致
- スポーツイベントの開催

## Ⅱ トップアスリートとの交流

### ◆現状と課題

- 「ながはまスポーツ夢プロジェクト」として、有名選手によるスポーツ教室や講演会を開催しています。トップアスリートを間近で見て、直接指導を受け、高い技術力を肌で感じることは、子どもたちに感動を与え、夢と希望に直結します。また、指導者や保護者の指導力向上にもつながるため、今後も夢ある事業として、継続していく必要があります。

### ◆施策

#### 1. 「ながはまスポーツ夢プロジェクト」の推進

子どもたちをはじめ指導者や保護者も夢と感動を共有できる事業となるよう、工夫しながら「ながはまスポーツ夢プロジェクト」を実施します。

○「ながはまスポーツ夢プロジェクト」の実施

## Ⅲ スポーツに関する情報の発信

### ◆現状と課題

- 「平成 30 年度市民満足度調査」によると、本市における成人の週 1 回以上のスポーツ実施率は 40.1%にとどまっています。また、スポーツ関連イベントの 1 年間の参加頻度が「0 回」と回答した人は 85.0%もあり、スポーツイベントやスポーツ教室の周知不足が原因の一つと考えられます。
- 県大会、近畿大会、全国大会、国際大会に出場され、活躍されている多くの地元選手がいますが、市民にこの情報が発信できていない現状です。

### ◆施策

#### 1. スポーツイベントに関する情報の発信

市民のスポーツへの関心を高め、スポーツ活動への参画を促すために、様々な機会をとらえスポーツイベントの情報を効果的に発信することで、市民がスポーツ活動に参画する機会を拡大します。



○スポーツイベントに関する情報の積極的な発信

#### 2. 地元選手に関する情報の発信

地元選手の活躍に関する情報を積極的に発信します。

○地元選手に関する情報の積極的な発信

○活躍した地元選手の情報発信

# 「ささえる」スポーツ

## I スポーツ関係団体の育成・支援

### ◆現状と課題

- 「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」を好機として、本市のスポーツ人口を拡大し、生涯スポーツ、地域スポーツを推進するためには、スポーツ推進委員、長浜市スポーツ協会、(公財)長浜文化スポーツ振興事業団などのスポーツ関係団体が連携・協働する体制を構築する必要がありますが、現段階ではスムーズな連携が図れていないのが現状です。
- 各スポーツ競技団体は、競技人口の減少とともに横の連携が薄れてきており、長浜市スポーツ協会を核とした組織体制の強化が求められています。
- 地域スポーツは、これまでも心身の健康の保持増進や地域コミュニティの形成等に大きな役割を果たしてきましたが、少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの希薄化が進む中で、総合型地域スポーツクラブに求められる役割や機能が拡大しています。  
しかしながら、「平成30年度市民満足度調査」によると、総合型地域スポーツクラブの認知度は、わずか30.4%にとどまっており、決して高いとはいえない状況にあります。
- 本市では、8つの地域で総合型地域スポーツクラブが設置されましたが、クラブの熟度により運営状況も様々であり、指導者の確保などさらなる充実が求められています。

### ◆施策

#### 1. 「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」に向けた組織体制の強化

「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の成功に向けて、市内のスポーツ団体・スポーツ関係者が連携・協働できるように、長浜市スポーツ協会を核とした組織体制の強化を図ります。

○スポーツ関係団体の組織体制の強化

#### 2. スポーツ競技団体の連携・協働

スポーツ競技団体の連携・協働を進めます。

○スポーツ競技団体の連携・協働の推進

○スポーツ競技団体の合同研修会の開催

#### 3. 総合型地域スポーツクラブの充実

子どもから高齢者まで幅広い世代が地域で身近にスポーツに親しみ、楽しめる地域スポーツの拠点として、各地域での総合型地域スポーツクラブの設置と育成を図ります。また、スポーツクラブの指導者等の資格取得を促進し、活動の充実を図ります。

さらに、地域でのスポーツ活動の情報の共有や、総合型地域スポーツクラブの質を高めるために、スポーツクラブ間の連携強化を図ります。

○市内全域での総合型地域スポーツクラブの設置と充実

○総合型地域スポーツクラブ間の連携強化

## Ⅱ 指導者・ボランティアの育成・支援

### ◆現状と課題

- 様々な競技において、ドーピング、パワーハラスメント、暴力行為などの問題事案が相次いで発生していることから、今こそ改めて、スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）を高めていく必要があり、指導者は率先して実践していくことが求められています。
- 教員の働き方改革により運動部活動の取組が制限されてきており、学校と外部指導者のマッチングが求められています。
- 「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」では、非常に多くのボランティアの協力が必要になりますが、本市の県スポーツボランティア登録者はわずか5名（H29年度）にとどまっており、スポーツボランティアの育成が大きな課題です。

### ◆施策

#### 1. スポーツ指導者の育成・支援

スポーツ関係団体が主催する指導者研修会等を活用して、スポーツ指導者の確保及び指導力の向上を図ります。

また、長浜市スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ等と連携し、学校部活動と外部指導者のマッチングに取り組みます。



- 指導者資格の取得促進
- スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）の推進
- 「ながはまスポーツ夢プロジェクト」の推進
- 学校部活動と外部指導者のマッチングの推進
- スポーツ指導者の登録・紹介制度の促進

#### 2. スポーツボランティアの育成

滋賀県スポーツボランティア支援制度を活用し、ボランティアの拡大を図ります。また、スポーツイベントで、選手や観客と最初に接する機会が多いボランティアの「おもてなし」は参加者の満足度につながるため、「おもてなし」研修等、ボランティアの育成を図ります。

- スポーツボランティアの育成
- 「滋賀県スポーツボランティア支援事業<sup>※31</sup>」（ゲ-ムガ-カ- SHIGA）への登録の促進



### Ⅲ スポーツ活動の顕彰

#### ◆現状と課題

- スポーツに関する功労者表彰や優秀な成績をおさめた選手に激励金の交付をしていますが、顕彰者の称賛に加え、身近な地元選手等の活躍を紹介することで、スポーツへの興味や関心を深める機会とするため、広く発信していく必要があります。

#### ◆施策

##### 1. スポーツ表彰の実施

スポーツの発展や生涯スポーツの振興・発展に寄与した者及び指導者等を表彰します。また、教育・文化または体育の振興に貢献し、その功績が顕著である者を表彰します。

- 長浜市社会体育功労者表彰<sup>※32</sup>及び優秀選手・優秀チーム表彰の実施
- 長浜市功績者表彰<sup>※33</sup>の実施（教育文化功績表彰）

##### 2. 「国際大会等出場激励金」の交付

選手の意識の高揚や市民のスポーツへの関心を高める契機とするため、国際大会、全国大会等に出場する選手に激励金を交付するとともに、選手の情報発信を行います。

- 「国際大会等出場激励金<sup>※34</sup>」の交付
- 制度の広報・啓発及び交付者の情報発信



# 「つなげる」スポーツ

## I スポーツの力で未来への絆づくり

### ◆現状と課題

- スポーツは、個人の心身の健全な発達や健康の保持増進に重要な役割を果たすことはもとより、スポーツにかかわる様々な主体に新しいつながりを生みだし、コミュニティを活性化させることで豊かな地域社会を創る原動力となるなど、無限の可能性を有しています。
- これまで、「する」、「みる」、「ささえる」の3つの視点を中心として、「個人」がそれぞれのスタイルに応じてスポーツに親しむことができるよう、各種スポーツ施策を展開してきましたが、今後は、これら取組に加え、「つなげる」視点を加味することにより、対象を「コミュニティ」や「地域」へと広げ、スポーツにより生みだされる効果を、より多角的に波及させることが求められます。
- スポーツが有する多様な力を今後のまちづくりに生かすため、「人と人」、「人と地域」、「地域と地域」など、スポーツをキーワードとして、あらゆる主体をつなげることができる仕組みづくりが必要です。
- 「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」や滋賀県で開催される「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」は、長浜のスポーツシーンを盛り上げる絶好の機会であり、まちづくりを一層推進するための起爆剤となります。  
これらの大会に向けた機運の高まりや取組を一過性のものにすることなく、未来の長浜づくりへとつなげていくことが必要です。

### ◆施策

#### 1. 人と人、人と地域をつなげる「スポーツの力」

スポーツは、個人競技であっても様々な人間関係で成り立っており、スポーツを通じてともに汗を流し、高めあい、交流を深めることは、信頼や友情を築き、「人と人」との絆づくりへとつながります。

また、人の集まりである「地域」においてスポーツの輪が広がることで、地域に誇りと愛着を感じることができ、地域の一体感や活力の醸成へとつながります。

人が笑顔になり、地域も元気にする事ができる「スポーツの力」。スポーツに親しむ機会の創出やスポーツイベントの開催、また、地域における総合型地域スポーツクラブ活動の活性化を図るなど、スポーツにより生み出される効果が多角的・多面的に地域へと波及する仕組みづくりに取り組みます。



- スポーツに親しむ機会の創出
- スポーツイベントの開催
- 総合型地域スポーツクラブ活動の活性化

## 2. 地域を活性化させる「スポーツの力」

スポーツを振興することは、人が元気になることはもちろん、スポーツ産業の広がりやそれに伴う雇用創出、さらに大規模大会の開催による交流人口の拡大など、新たな経済効果を生みだし、地域経済の発展に寄与します。

また、本市が有する豊かな自然環境や歴史的・文化的資源にスポーツの要素を掛け合わせ、スポーツツーリズム<sup>※35</sup>やアウトドアスポーツツーリズム<sup>※36</sup>を推進することで、地域を盛り上げ、新たな産業を生み出すことができます。

地域が元気になり、地域を活性化させることができる「スポーツの力」。

既存の枠組みでスポーツをとらえるのではなく、スポーツと地域資源との融合を促進することにより、新しい地域魅力を創出し、地域を活性化するための取組を推進します。

- スポーツツーリズムの推進
- アウトドアスポーツツーリズムの推進

## 3. 長浜の未来へつなげる「スポーツの力」

いつの時代もまちづくりの主役は「人」です。そして、スポーツには、豊かな人間性を育み、「地域」を元気にする力があります。その他、「スポーツの力」が有する可能性は、無限大に広がります。

2019年には「ラグビーワールドカップ2019」、2020年には「東京2020オリンピック・パラリンピック」、2021年には「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」また、2024年には滋賀県で「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」など、大きなスポーツイベントが連続して開催される「ゴールデン・スポーツイヤーズ」を、本市におけるスポーツ振興の絶好の機会と捉え、「する」、「みる」、「ささえる」、「つなげる」の4つの視点からスポーツを通じて健康長寿の達成、共生社会の実現、地域や経済の活性化に取り組むことはもとより、「人と人」、「人と地域」、「地域と地域」をつなげることができる『スポーツの力』を最大限に引き出し、未来への架け橋とすることにより、すべての人の笑顔があふれる長浜づくりを実践していきます。

- 長浜市が一丸となった「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の開催
- 「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」を契機としたまちづくり



## 第5章 計画の推進について

### 1 数値指標の設定

今後6年間において計画を着実に推進し、その進捗状況や施策の成果を把握するために、引き続き数値指標を定めます。数値指標は、全国体力・運動能力、運動習慣等調査、市民満足度調査等の結果及び指標達成状況をもとに、第2期滋賀県スポーツ推進計画を踏まえ、数値指標の一部見直しを行ったうえで設定します。

指 標		H25(2013)年 (当初策定時)	現 状	2024年 (目標年)
す る	幼少年期スポーツ教室等参加者数 【新規】	—	2,041人 (H29)	2,300人
	子どもの1週間の運動・スポーツ実施時間(授業以外) 【小学校5年生】 (1日5分増を目指す。)	指標の見直しのため数値なし	男子 594.4分 女子 354.4分 (H29)	男子 630.0分 女子 390.0分 以上
	スポーツ少年団加入率 【新規】 (小学4年から6年生)	—	40.0% (H29)	50.0% 以上
	成人の週1回以上のスポーツ実施率 (国・県の目標 65%以上)	42.0%	40.1% (H30)	65.0% 以上
	スポーツ施設利用者数(学校開放事業除く。) (現状及び2024年の指標は、県施設含む。)	587,656人	857,828人 (H29)	900,000人 以上
	県障害者スポーツ大会の参加者数 【新規】	—	83人 (H29)	100人
	県民体育大会における総合順位	7位	9位 (H29)	5位 以上
み る	全国規模大会開催数 【新規】	—	5件 (H29)	10件
	トップアスリートとの交流参加人数 【新規】	—	744人 (H29)	800人
さ さ え る	団体等が開催するスポーツイベントの後援件数 【新規】	—	58件 (H29)	80件 以上
	総合型地域スポーツクラブ設置数	4団体	8団体 (H30)	9団体
	総合型地域スポーツクラブ有資格者登録数 【新規】	—	14名 (H30)	20名 以上
	スポーツボランティアの登録者数 (県ボランティア登録システム利用) 【新規】	—	5名 (H29)	150名 以上
つ な げ る	「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の参加者数 <「する」(選手)、「みる」(観客)、「ささえる」(ボランティア)> 【新規】	—	—	50,000人

# 資 料

## ◆用語解説

### ◆長浜市のスポーツに関する参考資料

- 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について
- スポーツ少年団の登録状況について
- 平成30年度市民満足度調査について
- 「健康ながはま21策定にかかるアンケート調査」について
- スポーツ施設利用者数（学校開放事業除く）
- 「国際大会等出場激励金」交付件数について
- スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数

## ◆用語解説

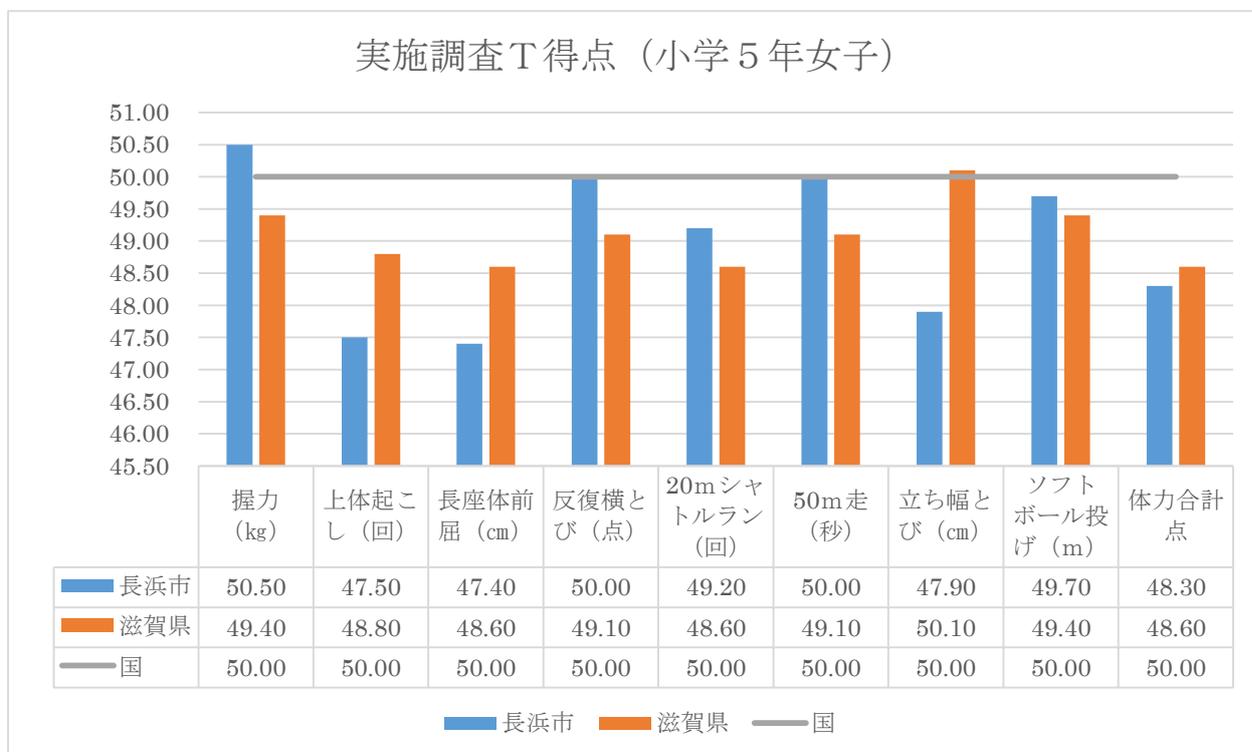
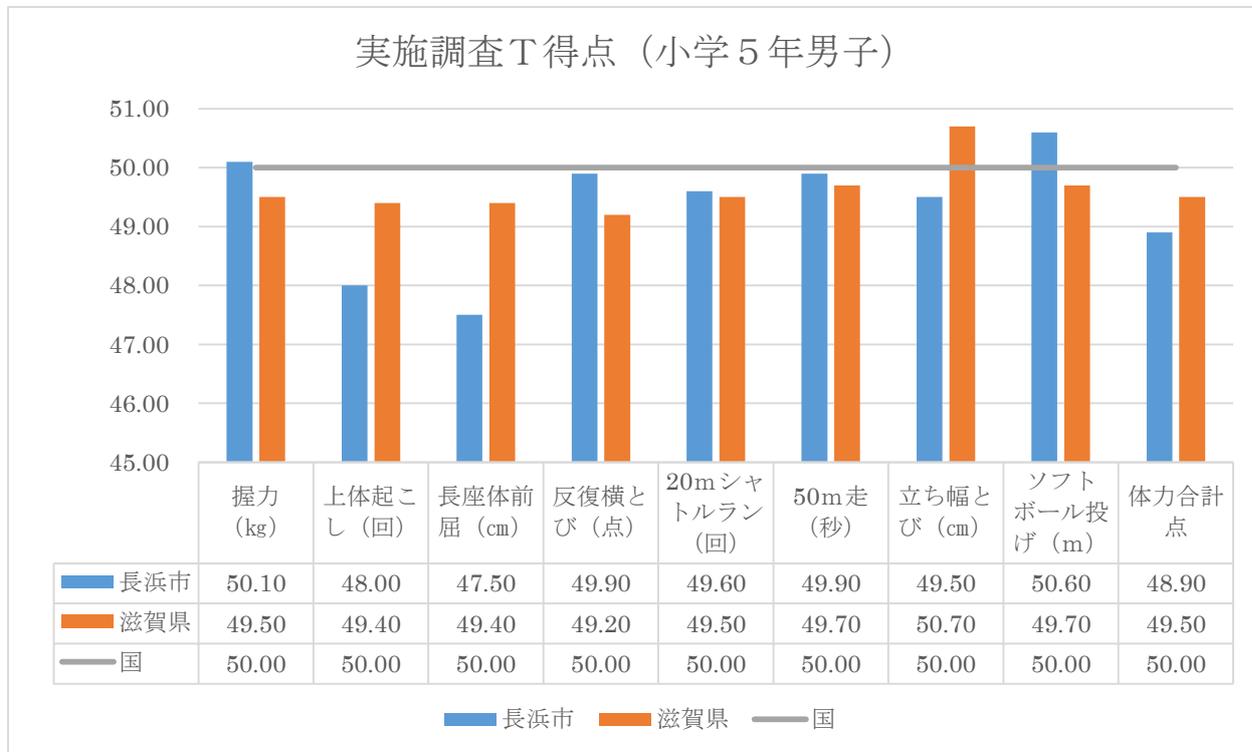
用 語	※	解 説
スポーツ基本計画	1	スポーツ基本法の規定に基づき、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための重要な指針として位置づけられるもの。
滋賀県スポーツ推進計画	2	スポーツ基本法及び滋賀県スポーツ推進条例に基づき、スポーツの推進に関する総合的かつ計画的な推進を図るための計画。
ワールドマスターズゲームズ 2021 関西	3	国際マスターズ協会が4年ごとに主催する中高年齢のための世界規模の国際総合競技大会。2021年には関西で開催。
スポーツ基本法	4	スポーツに関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めるもの。平成23年6月24日公布
長浜市総合計画	5	長期的な展望に立ち、総合的かつ計画的に本市のまちづくりを行うための指針。
長浜市教育振興基本計画	6	教育基本法に基づく、本市の教育振興を図るために定める基本的な計画と位置づけられるもの。
健康ながはま 21	7	あらゆる世代の人が健康でいきいきと生活できるまちを目指し、個人の生活の質の向上と健康のための社会環境の整備を進める健康づくりの計画。
ゴールドプランながはま 21	8	老人福祉法に基づく、市町村老人福祉計画と介護保険法に基づく、市町村介護保険事業計画を一体的にまとめた、本市が目指す、地域包括ケアシステムをはじめ、今後の高齢者保険・福祉・介護施策の方向性を明らかにし、これらの実現に向け市民・地域と行政が協働し、事業を円滑に実施していくための指針。
PDCA サイクル	9	Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）を繰り返すことによって、生産性や品質管理などの管理業務を継続的に改善していく手法。
全国体力・運動能力、運動習慣等調査	10	子どもの体力が低下している状況から、全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的とし、平成20年度から文部科学省が実施している調査。
スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）	11	明確に定義されているとはいえないが、ドーピング、八百長、違法賭博、暴力、ハラスメント、差別、団体ガバナンスの欠如等の不正がない状態であり、スポーツに携わる者が自らの規範意識に基づいて誠実に行動することにより実現されるものとして、国際的に重視されている概念。
フラッグフットボール	12	スポーツの種目。プレーヤーの腰の左右につけたフラッグを取ることに置き換え、敵味方の選手同士の身体的接触は原則として禁止とした、より安全で幅広い層が参加できることを目指したフットボール。
総合型地域スポーツクラブ	13	いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも運動やスポーツに親しむことができる社会を実現するために、地域の住民が主体となって、自ら運営・管理する多種目・多世代のスポーツクラブ。
次世代アスリート発掘育成プロジェクト	14	滋賀県内の小学5年生を対象に運動テスト（選考会）を行い、選抜された子どもたちを滋賀レイキッズとして登録し、様々なトレーニングや競技体験を受講して、アスリートに必要な技術・感覚・精神面などを身に付け、自分の適性に合った競技を見つけながら、将来、全国大会や国際大会で活躍できるトップアスリートを育成するプロジェクト。
ジュニアアスリート育成プログラム	15	滋賀県が実施している「次世代アスリート発掘育成プロジェクト」に参加できる子どもたちの育成を行う事業
長浜市スポーツ協会	16	体育・スポーツの普及発展を図り、市民の心身の健全な発達と明るく豊かな市民生活に寄与することを目的とした組織。 平成30年5月28日に「長浜市体育協会」から「長浜市スポーツ協会」に名称変更

県民総スポーツの祭典・県民体育大会	17	「滋賀県民体育大会の部」「滋賀県スポーツ・レクリエーション大会の部」「滋賀県レクリエーション大会の部」「滋賀県総合型地域スポーツクラブスポーツ交流大会の部」「びわ湖男女駅伝フェスティバル」「滋賀県障害者スポーツ大会」からなる県民総参加型のスポーツの祭典。
(公財)長浜文化スポーツ振興事業団	18	昭和55年に長浜市の出資により「スポーツ施設や文化施設の管理と、スポーツ・文化振興事業を実施し、地域住民の文化の向上とスポーツ振興に寄与する」ことを目的に設立された公益財団法人。
ながはまスポーツキッズフェスティバル	19	幼児から小学校低学年の子どもたちを対象に大学生らによる専門的な運動遊びを提供するスポーツイベント。
ながはま鬼ごっこ	20	誰もが気軽にはじめられる「鬼ごっこ」を普段の運動・スポーツに取り入れるよう啓発を行います。
運動あそび推進事業	21	『運動あそびを通して意欲と自信を高める中で、体を動かすことが大好きになり、動ける「体」をつくとともに、人とうまくかわれる「心」を育成する』ことを目的に、就学前教育において日々の保育の中に運動あそびを取り入れている。
1日10分運動	22	児童の運動習慣の確立のため、朝や授業間、放課後に、毎日、全校児童が取り組む10分間の運動時間の実施。
フェアプレイ宣言	23	日本スポーツ協会が進めている「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーン運動を市内スポーツ活動のあらゆる場面で協力・実践を呼びかけている宣言。
スポーツプラス10運動	24	「運動プラス10」をキャッチフレーズに、健康の保持増進や病気・介護予防を目的に、今より10分多く体を動かすことを目標にした運動。
スポーツ推進委員会	25	市町村におけるスポーツを推進するため、事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導助言を行う(スポーツ基本法第32条第2項に規定)組織。
しょうがい者スポーツ指導員	26	(公財)日本障がい者スポーツ協会が国内のしょうがいのある人のスポーツ活動の普及と発展を目指して、しょうがいのある人のスポーツ環境を整備する上で専門的な知識、技術を有する人材の育成、資質向上を目的とした公認資格。
ながはまスポーツ夢プロジェクト	27	トップアスリートとの交流、スポーツ教室の開催など感動と夢を与えてくれる機会をつくるプロジェクト。
長浜市公共施設等総合管理計画	28	長期的な視点から長浜市の公共施設等を統合的かつ計画的に管理していくための指針
長浜市協働利用施設サポーター制度	29	市民との協働による公共施設の利用の推進を図り、かつ、公共施設の適切な管理運営に資する制度。
ネーミング・ライツ	30	公共施設等に名称を付与する権利(命名権)及びこれに付帯する諸権利等(パートナーメリット)。
滋賀県スポーツボランティア支援事業	31	滋賀県からの委託事業として(公財)滋賀レイクスターズが「ゲ-ム」キャラクター-SHIGA」事業として、ボランティアの登録と派遣事業を受託して、ボランティアの活動を推進する事業。
長浜市社会体育功労者表彰	32	長浜市スポーツ協会が、生涯スポーツの振興発展に寄与した者及び指導者を称え表彰するもの。
長浜市功績者表彰	33	本市の市勢の伸展及び公益の増進に寄与するところが大きく、その功績が著しい者の栄誉を称え表彰するもの。
国際大会等出場激励金	34	本市における文化スポーツの振興及び発展を図ることを目的とし、各種文化スポーツ大会に出場する個人に対して、予算の範囲内で激励金を交付する制度。
スポーツツーリズム	35	スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」ための旅行やこれらと周辺地観光を組み合わせた旅行のほか、旅行者が全国どこでもスポーツに親しめるような整備や提供も含まれる。
アウトドアスポーツツーリズム	36	アウトドアスポーツを切り口としたスポーツツーリズム。

○平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

・児童・生徒の体力運動能力の状況について

握力・反復横とび・20mシャトルラン・50m走・ソフトボール投げで男女とも県平均を上回っているものの、体力合計点は、全国・県に比べ低い状況です。



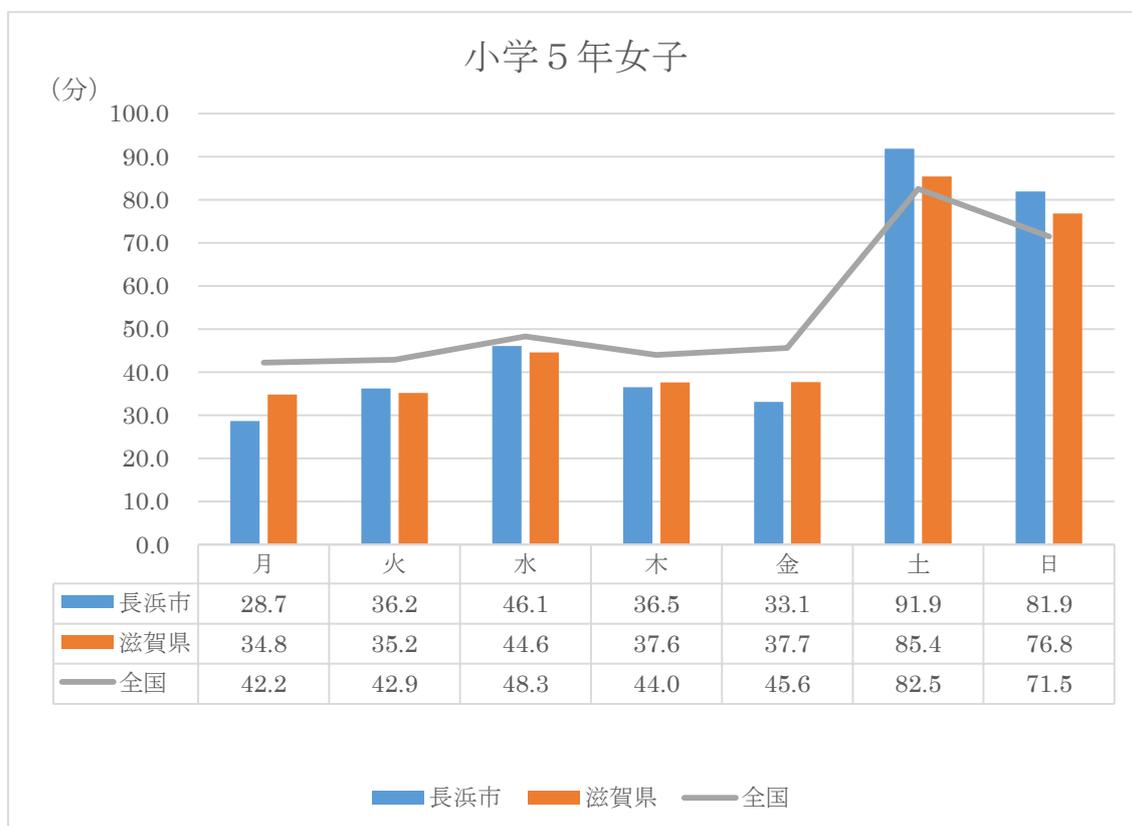
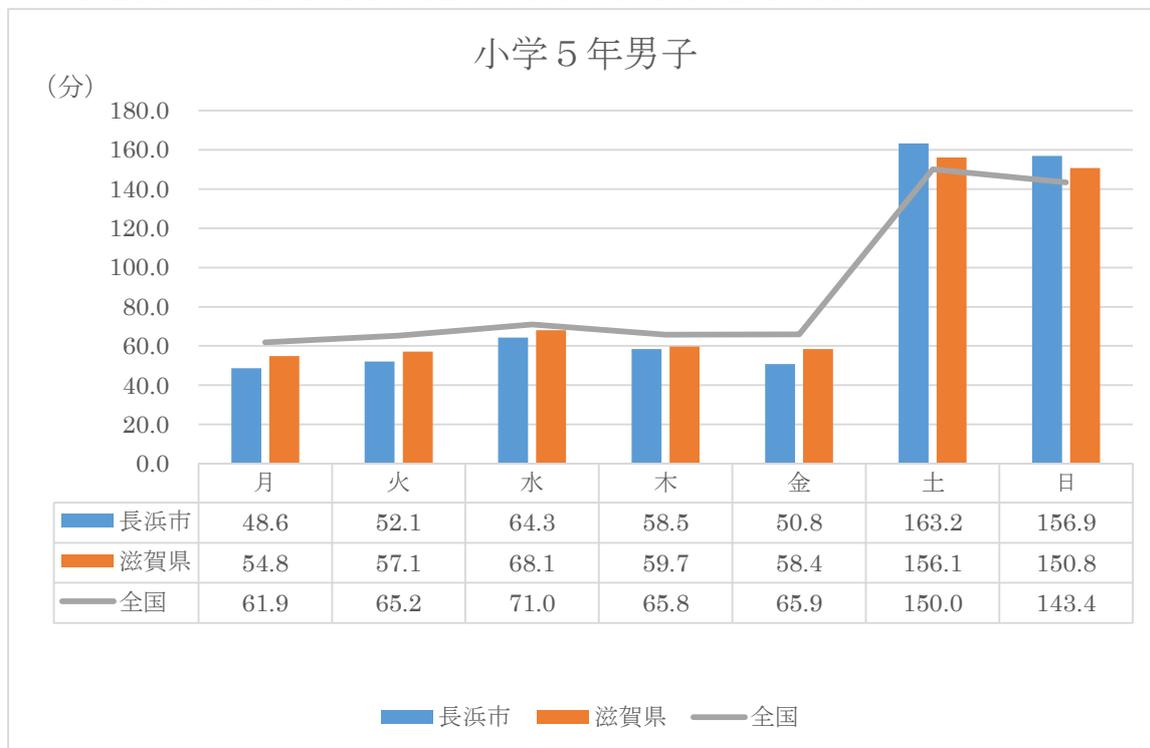
<T得点による本市と滋賀県・全国との比較>

※T得点とは、全国平均を50点とした時の相対的位置を示したもの。(単位の違う同一尺度を標準化したもの。)

• 子どもの運動習慣について

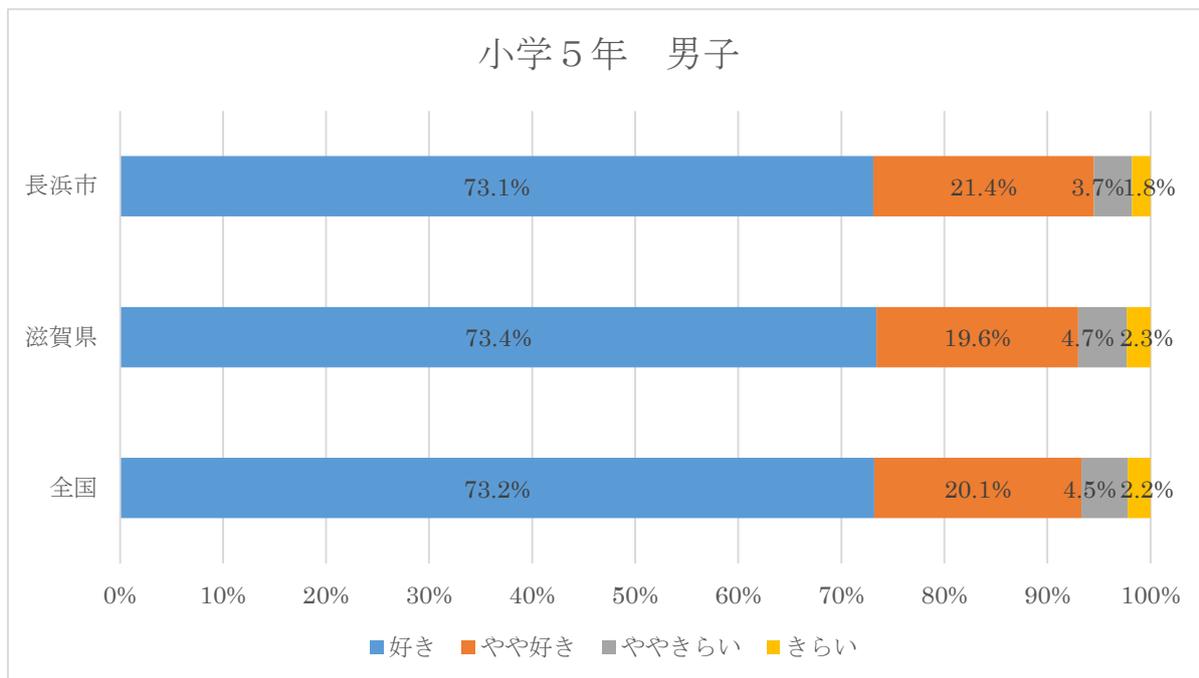
土日の運動時間は男女とも国・県より多いものの、総実施時間（男子 市:594.4 分、県:605 分、全国:623.2 分、女子 市:354.4 分、県:352.1 分、全国:377.0 分）では男子は国・県より少なく、女子は国より少ない状況です。

「普段の 1 週間について聞きます。学校の体育の授業以外で運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツを合計で 1 日およそどれぐらいの時間していますか」との質問

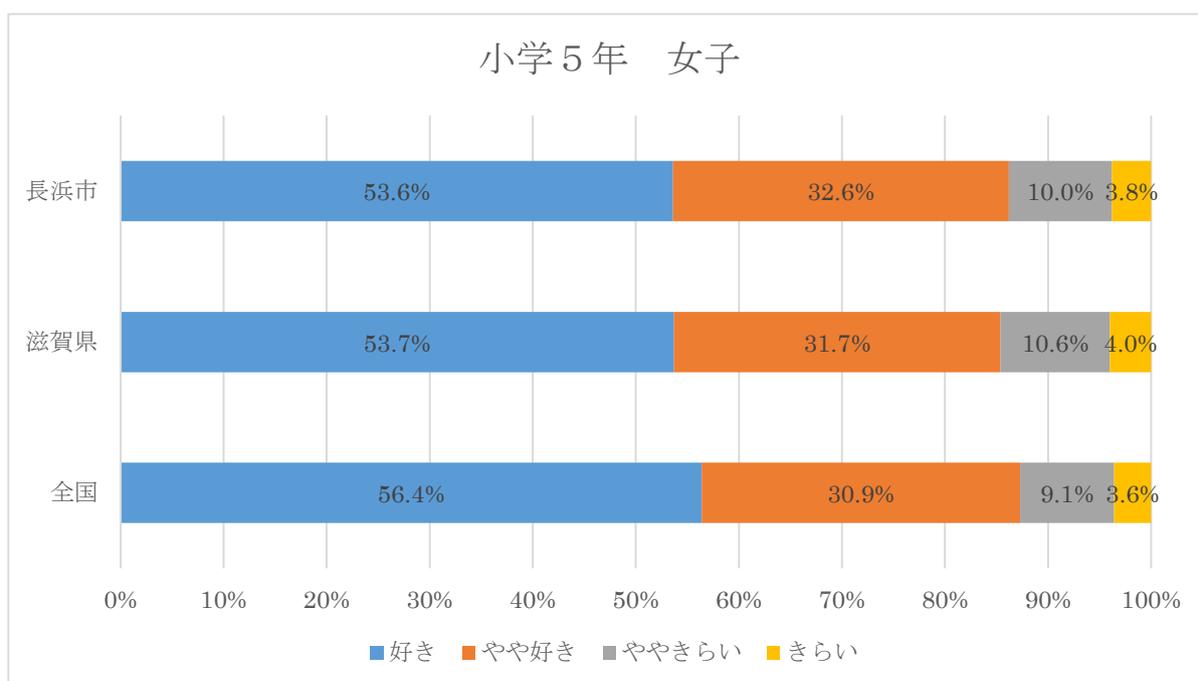


- 運動（体を動かす遊びも含む）やスポーツをすることが好きな割合について  
運動やスポーツをすることが「好き」、「やや好き」と答えた児童は、男女ともに8割以上となっています。

「運動（体を動かす遊びも含む）やスポーツをするのは好きですか」との質問



	長浜市	滋賀県	全国
■好き	73.1%	73.4%	73.2%
■やや好き	21.4%	19.6%	20.1%
■ややきらい	3.7%	4.7%	4.5%
■きらい	1.8%	2.3%	2.2%

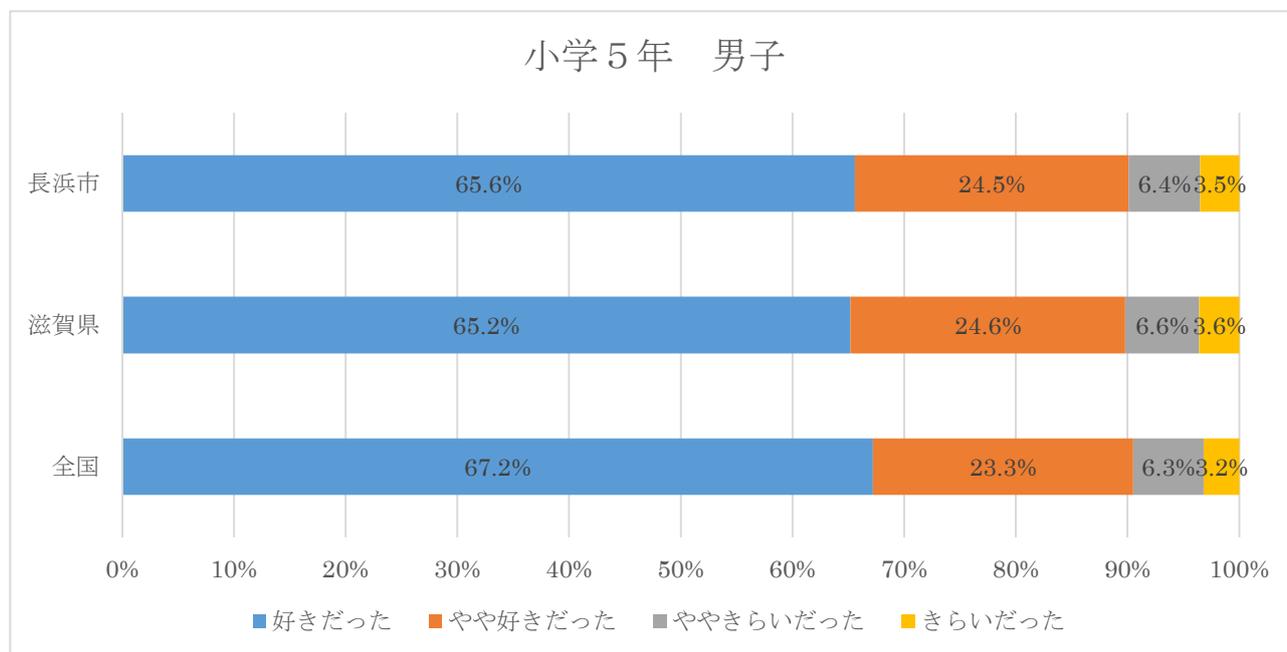


	長浜市	滋賀県	全国
■好き	53.6%	53.7%	56.4%
■やや好き	32.6%	31.7%	30.9%
■ややきらい	10.0%	10.6%	9.1%
■きらい	3.8%	4.0%	3.6%

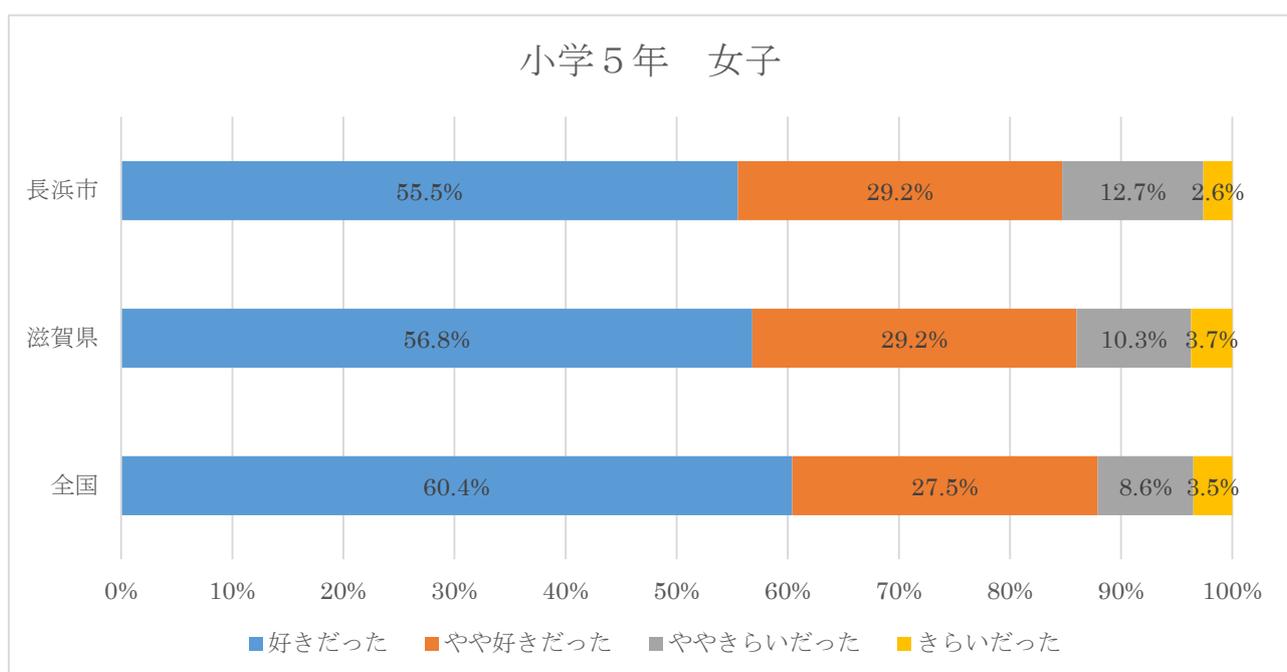
・小学校入学前の体を動かす遊びが好きな割合について

小学校入学前から体を動かすのが「好きだった」、「やや好きだった」と答えた児童は、男女ともに8割以上となっており、小学校入学前から体を動かすのが好きだった児童は、入学後も好きでいる傾向にあります。

「小学校入学前は、体を動かす遊びは好きでしたか」との質問



	長浜市	滋賀県	全国
■好きだった	65.6%	65.2%	67.2%
■やや好きだった	24.5%	24.6%	23.3%
■やや嫌いだった	6.4%	6.6%	6.3%
■嫌いだった	3.5%	3.6%	3.2%

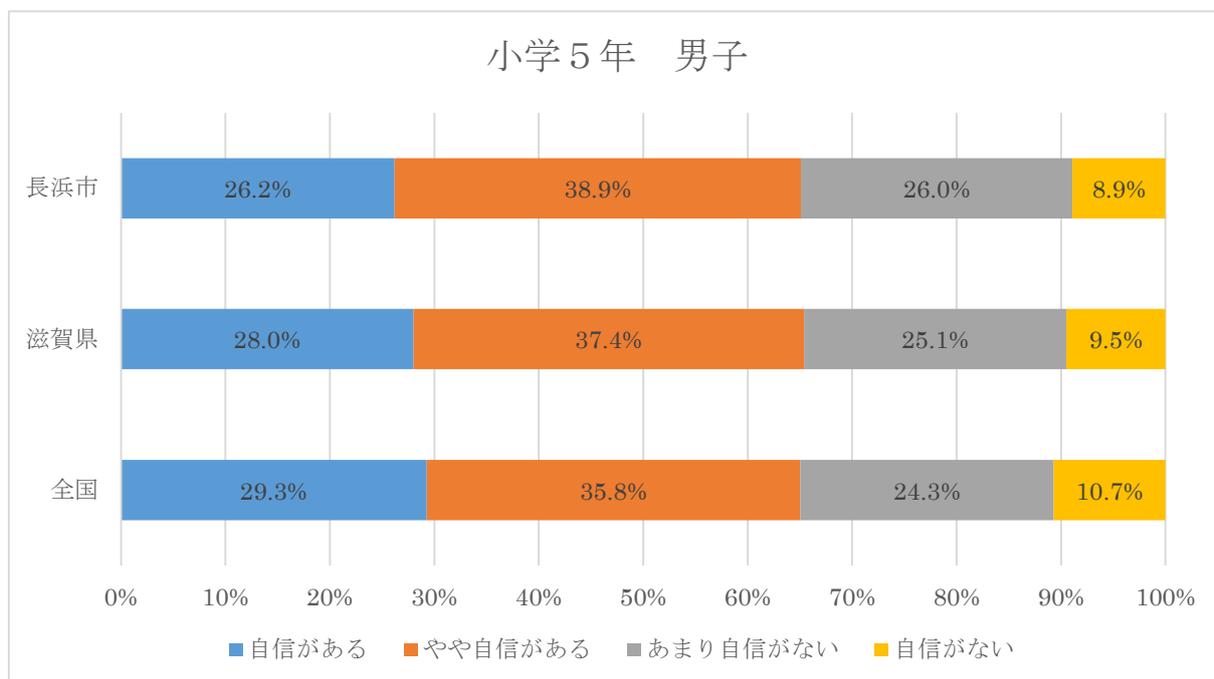


	長浜市	滋賀県	全国
■好き	55.5%	56.8%	60.4%
■やや好き	29.2%	29.2%	27.5%
■やや嫌い	12.7%	10.3%	8.6%
■嫌い	2.6%	3.7%	3.5%

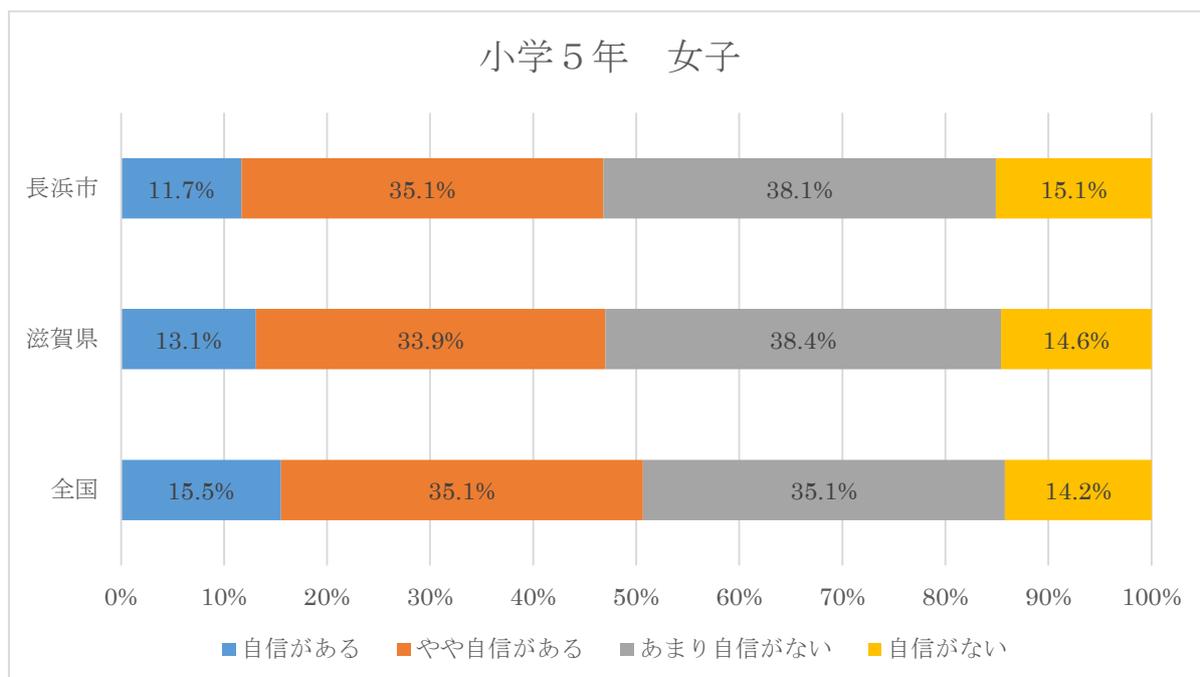
・自分の体力運動能力に自信がある割合について

自分の体力運動能力に「自信がある」、「やや自信がある」と回答した児童は、男子で、65.1%、女子で46.8%となっており、女子で国・県に比べ若干低い状況です。

「自分の体力・運動能力に自信がありますか」との質問



	長浜市	滋賀県	全国
■ 自信がある	26.2%	28.0%	29.3%
■ やや自信がある	38.9%	37.4%	35.8%
■ あまり自信がない	26.0%	25.1%	24.3%
■ 自信がない	8.9%	9.5%	10.7%

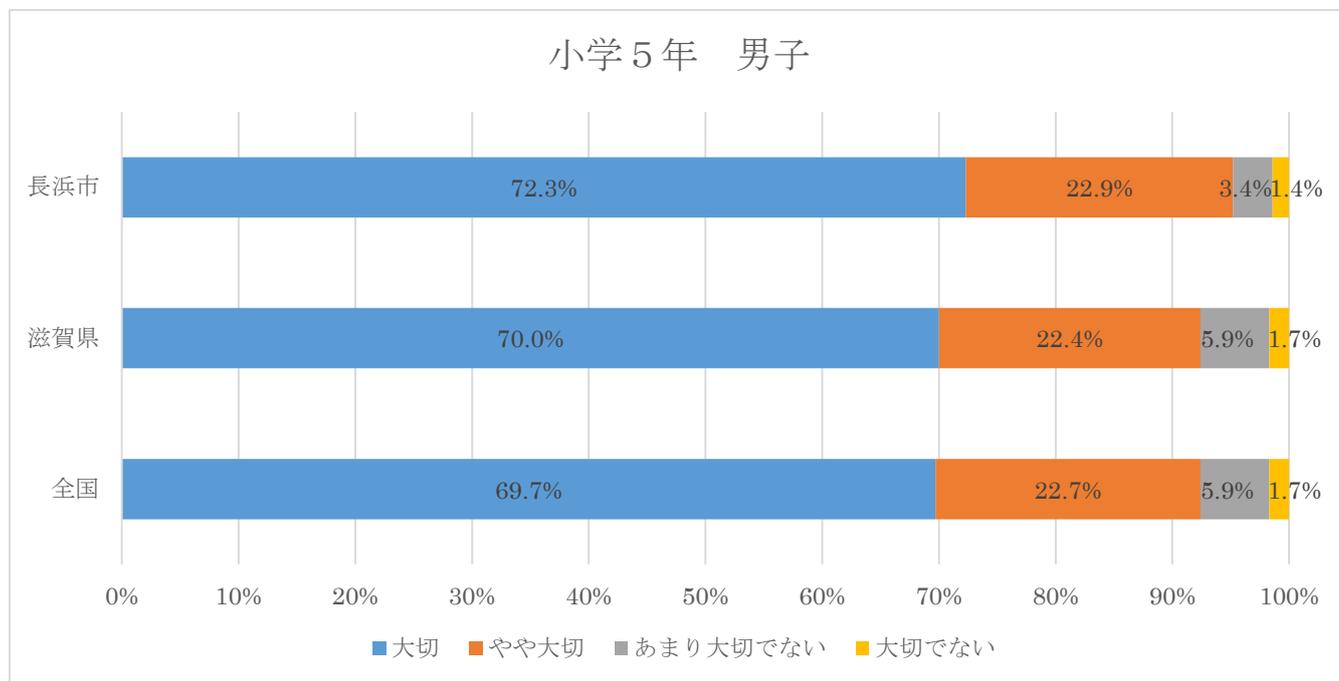


	長浜市	滋賀県	全国
■ 自信がある	11.7%	13.1%	15.5%
■ やや自信がある	35.1%	33.9%	35.1%
■ あまり自信がない	38.1%	38.4%	35.1%
■ 自信がない	15.1%	14.6%	14.2%

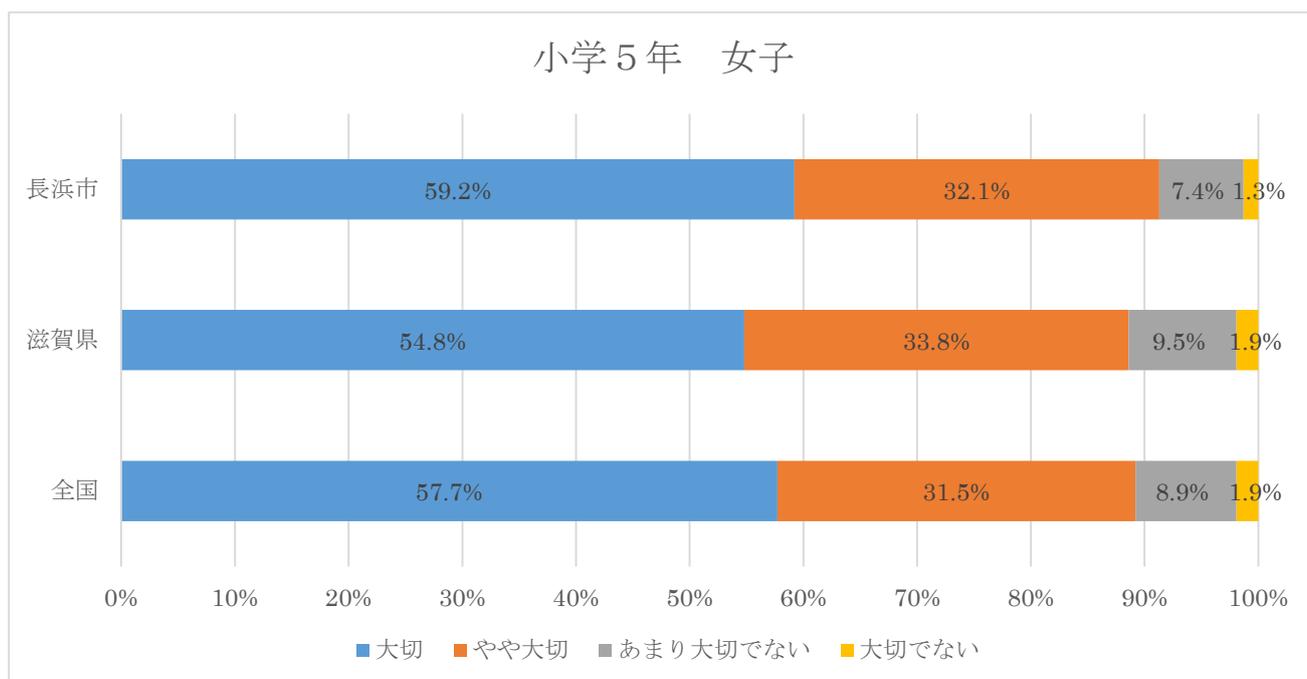
• 運動やスポーツが大切な割合について

運動やスポーツが「大切」、「やや大切」と思っている児童は、男女ともに9割以上となっています。

「あなたにとって運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツは大切なものですか」との質問



	長浜市	滋賀県	全国
■ 大切	72.3%	70.0%	69.7%
■ やや大切	22.9%	22.4%	22.7%
■ あまり大切でない	3.4%	5.9%	5.9%
■ 大切でない	1.4%	1.7%	1.7%

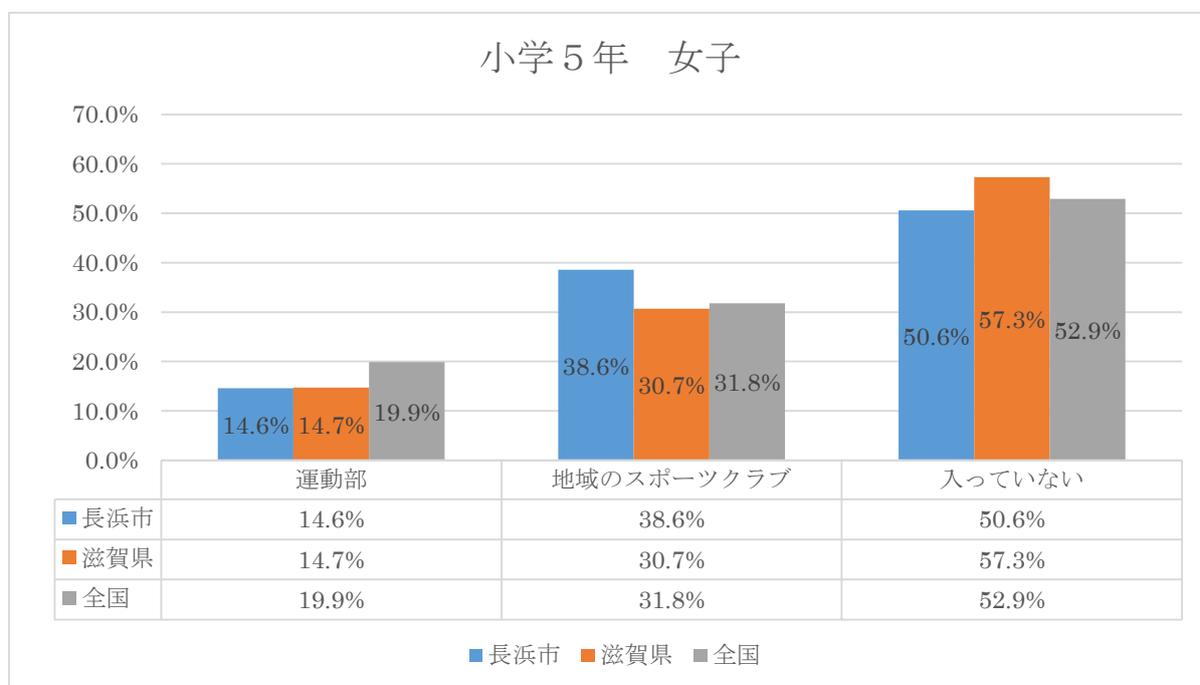
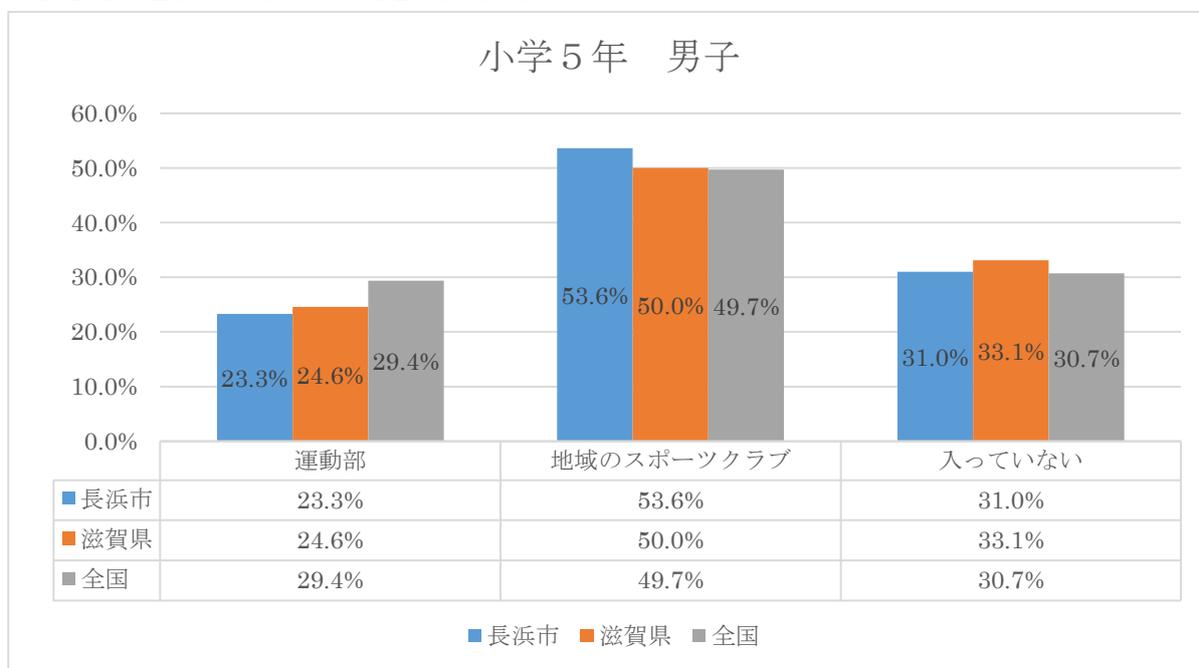


	長浜市	滋賀県	全国
■ 大切	59.2%	54.8%	57.7%
■ やや大切	32.1%	33.8%	31.5%
■ あまり大切でない	7.4%	9.5%	8.9%
■ 大切でない	1.3%	1.9%	1.9%

・学校の運動部や地域のスポーツクラブ（スポーツ少年団含む）に入っている割合

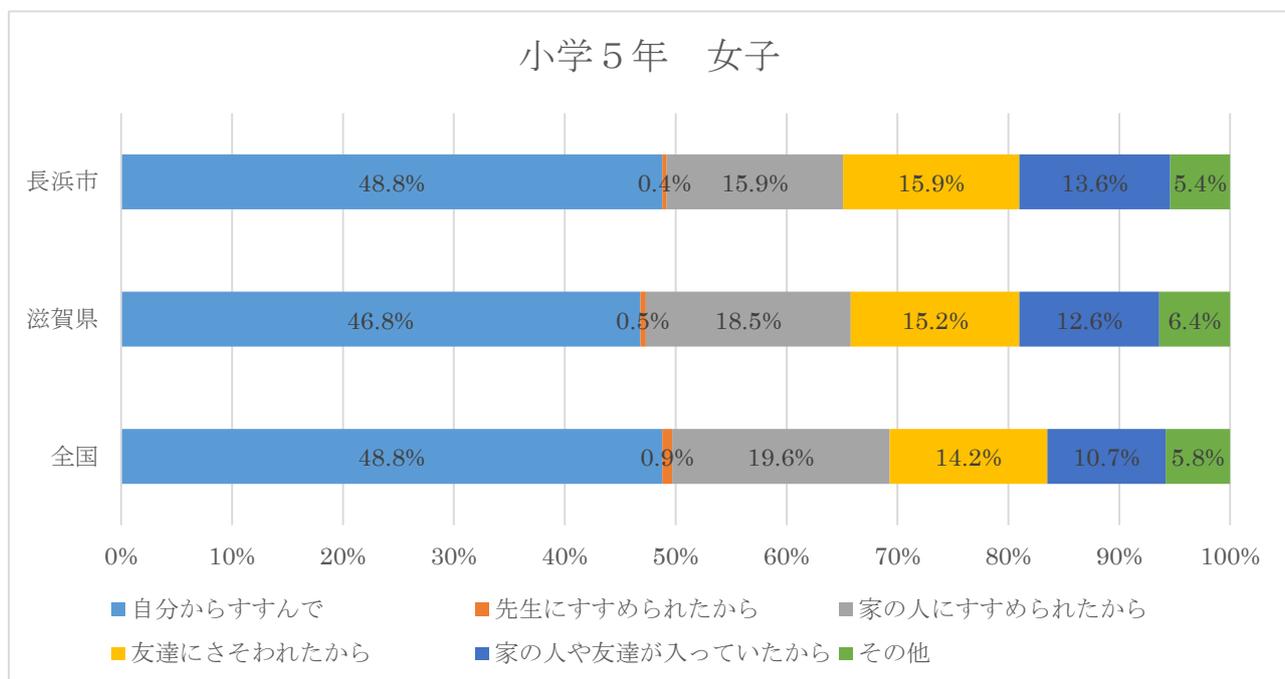
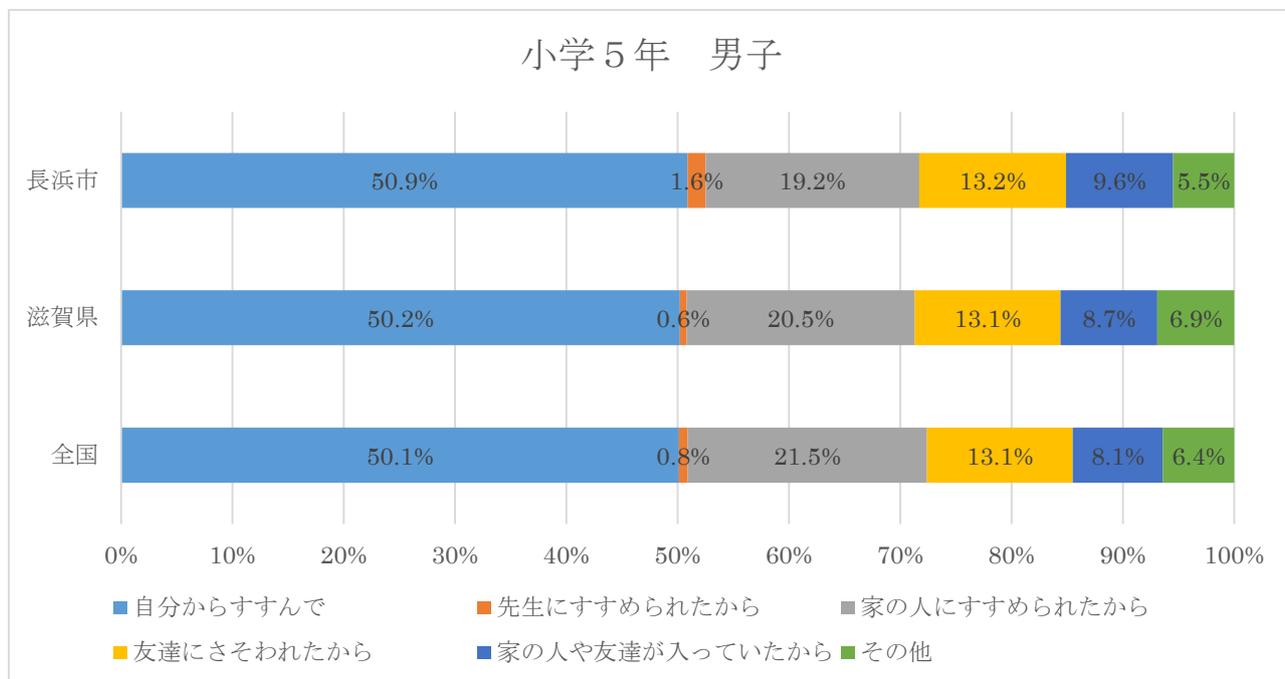
学校の運動部や地域のスポーツクラブに入っている割合は、男子で76.9%、女子で53.2%となっており、男子は全国の割合より低くなっています。女子は全国・県の割合より高くなっていますが、男子に比べ低い状態です。

「学校の運動部や地域のスポーツクラブに入っていますか。（スポーツ少年団をふくみます）あてはまるものをすべて選んでください」との質問



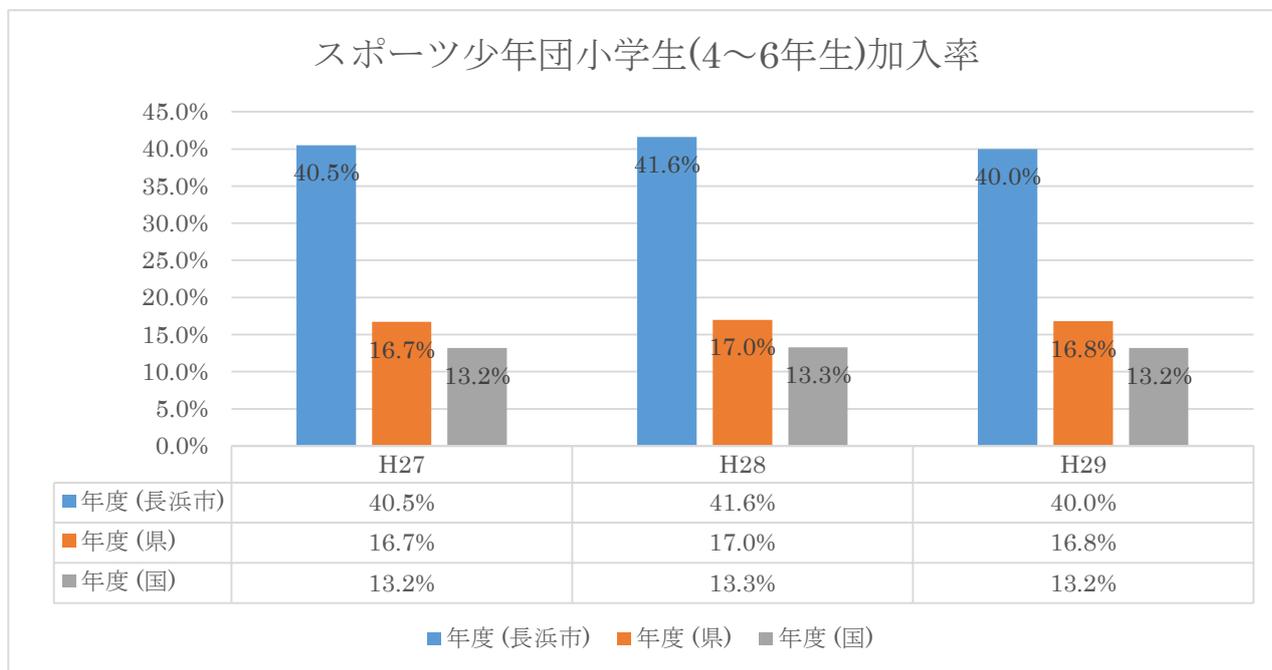
- 「運動部」、「地域のスポーツクラブ」と答えた人のそこに入った一番強いきっかけ  
運動部、地域のスポーツクラブに入った一番強いきっかけは、男女ともに「自分からすすんで」が一番多く、続いて「家の人にすすめられたから」、「友達にさそわれたから」となっています。

「運動部・地域のスポーツクラブに入った一番強いきっかけはどのようなことですか」との質問



## ○スポーツ少年団の登録状況（加入率）について

本市のスポーツ少年団の加入率は、40%前後で推移しており、国・県と比較して、高い加入率となっています。



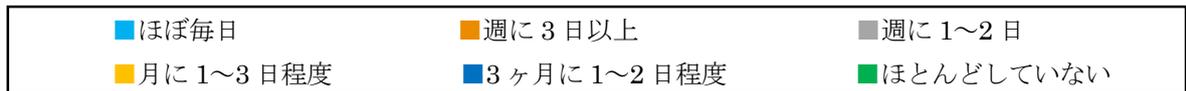
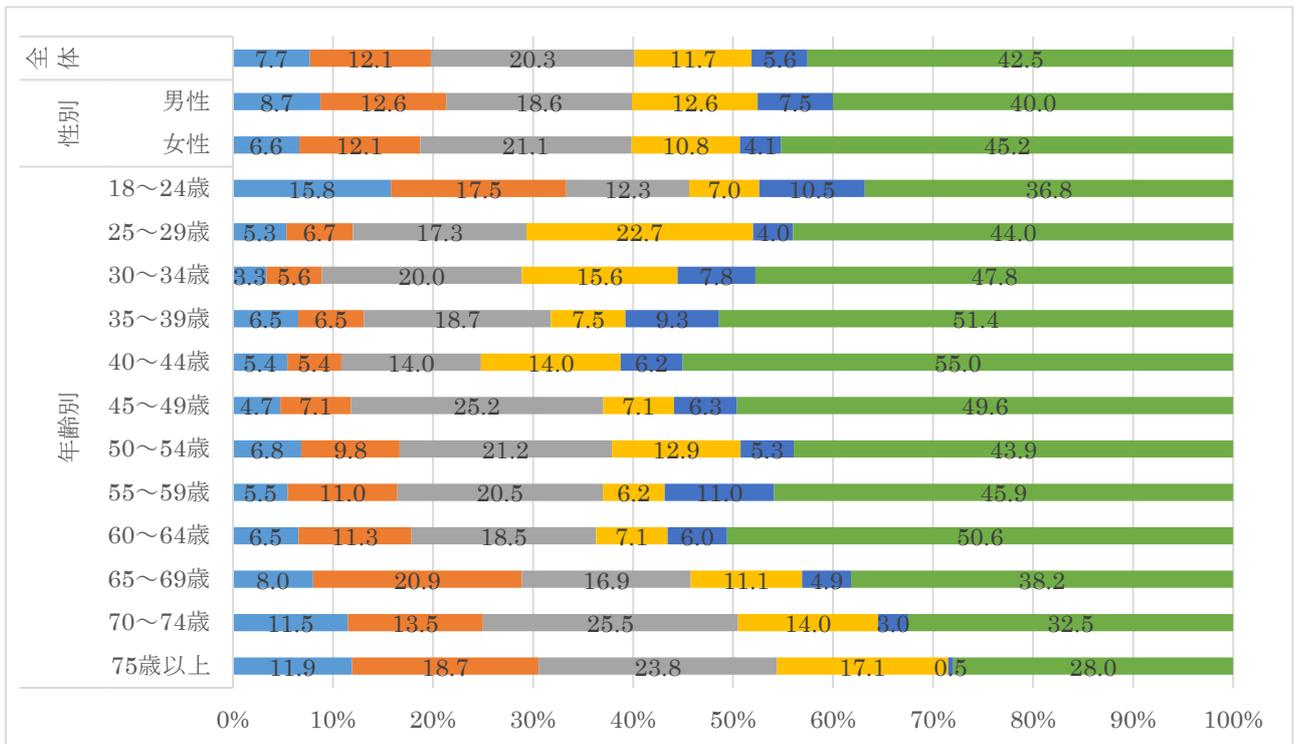
○平成 30 年度市民満足度調査について

・週 1 回以上の運動・スポーツの実施状況について

週に 1 日以上スポーツを行っている人は 40.1%あるものの、ほとんど行っていない人も 42.5%もある状況です。性別では女性が若干低いものの、年齢別では 40 歳から 44 歳までがもっとも低く、若い年齢層に加え 45 歳以降は年齢層が高くなるにつれて運動頻度も高まる傾向にあります。

週 1 回以上の運動・スポーツの実施状況

		回答数 (人)						構成比 (%)					
		ほぼ毎日	週に 3 日以上	週に 1～2 日	月に 1～3 日程度	3ヶ月に 1～2 日程度	ほとんどしていない	ほぼ毎日	週に 3 日以上	週に 1～2 日	月に 1～3 日程度	3ヶ月に 1～2 日程度	ほとんどしていない
全体		128	201	338	195	93	707	7.7	12.1	20.3	11.7	5.6	42.5
性別	男性	64	92	136	92	55	293	8.7	12.6	18.6	12.6	7.5	40.0
	女性	58	106	185	95	36	396	6.6	12.1	21.1	10.8	4.1	45.2
年齢別	18～24 歳	9	10	7	4	6	21	15.8	17.5	12.3	7.0	10.5	36.8
	25～29 歳	4	5	13	17	3	33	5.3	6.7	17.3	22.7	4.0	44.0
	30～34 歳	3	5	18	14	7	43	3.3	5.6	20.0	15.6	7.8	47.8
	35～39 歳	7	7	20	8	10	55	6.5	6.5	18.7	7.5	9.3	51.4
	40～44 歳	7	7	18	18	8	71	5.4	5.4	14.0	14.0	6.2	55.0
	45～49 歳	6	9	32	9	8	63	4.7	7.1	25.2	7.1	6.3	49.6
	50～54 歳	9	13	28	17	7	58	6.8	9.8	21.2	12.9	5.3	43.9
	55～59 歳	8	16	30	9	16	67	5.5	11.0	20.5	6.2	11.0	45.9
	60～64 歳	11	19	31	12	10	85	6.5	11.3	18.5	7.1	6.0	50.6
	65～69 歳	18	47	38	25	11	86	8.0	20.9	16.9	11.1	4.9	38.2
	70～74 歳	23	27	51	28	6	65	11.5	13.5	25.5	14.0	3.0	32.5
75 歳以上	23	36	46	33	1	54	11.9	18.7	23.8	17.1	0.5	28.0	

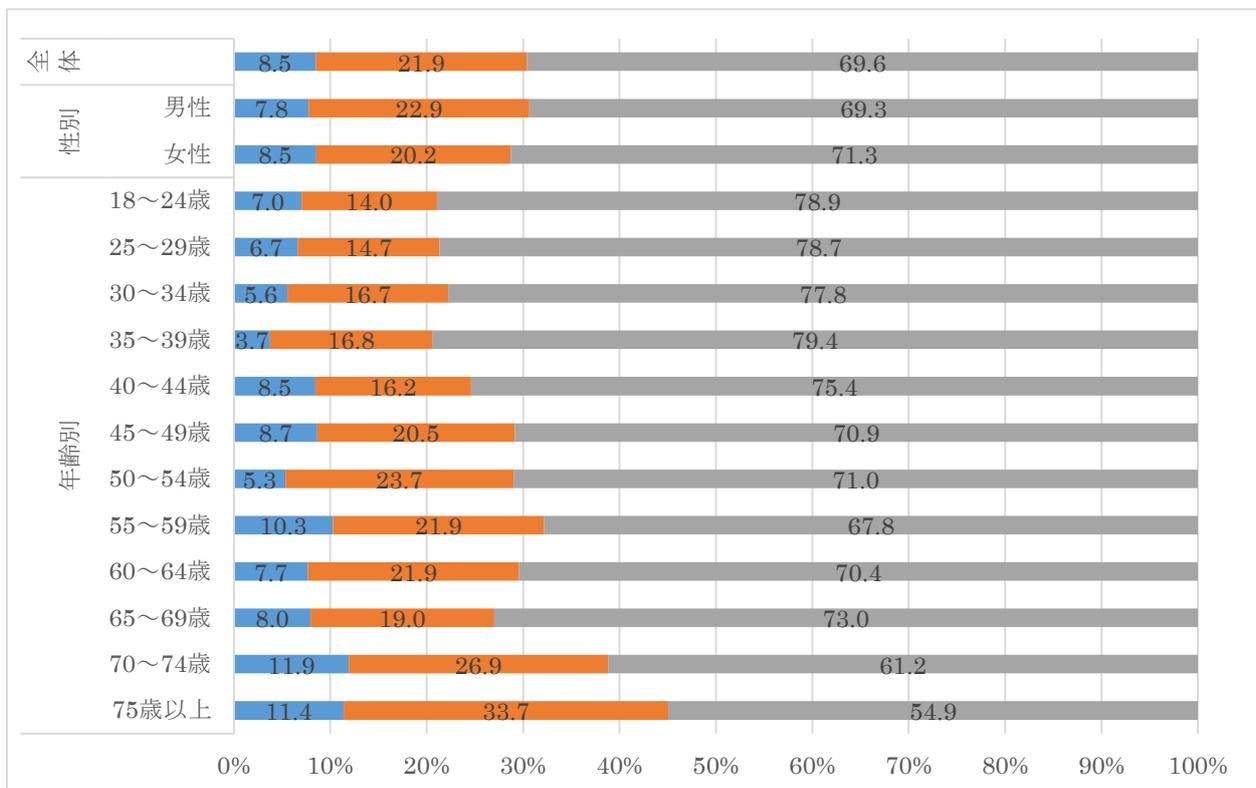


・総合型地域スポーツクラブについて

総合型地域スポーツクラブの認知度は「知っている」、「聞いたことがある」が30.4%にとどまっており、決して高いとはいえない現状です。

総合型地域スポーツクラブを知っているか

	回答数			構成比 (%)			
	知っている	聞いたことがある	知らない	知っている	聞いたことがある	知らない	
全 体	141	365	1,158	8.5	21.9	69.6	
性別	男 性	57	168	509	7.8	22.9	69.3
	女 性	75	177	626	8.5	20.2	71.3
年齢別	18～24歳	4	8	45	7.0	14.0	78.9
	25～29歳	5	11	59	6.7	14.7	78.7
	30～34歳	5	15	70	5.6	16.7	77.8
	35～39歳	4	18	85	3.7	16.8	79.4
	40～44歳	11	21	98	8.5	16.2	75.4
	45～49歳	11	26	90	8.7	20.5	70.9
	50～54歳	7	31	93	5.3	23.7	71.0
	55～59歳	15	32	99	10.3	21.9	67.8
	60～64歳	13	37	119	7.7	21.9	70.4
	65～69歳	18	43	165	8.0	19.0	73.0
	70～74歳	24	54	123	11.9	26.9	61.2
75歳以上	22	65	106	11.4	33.7	54.9	



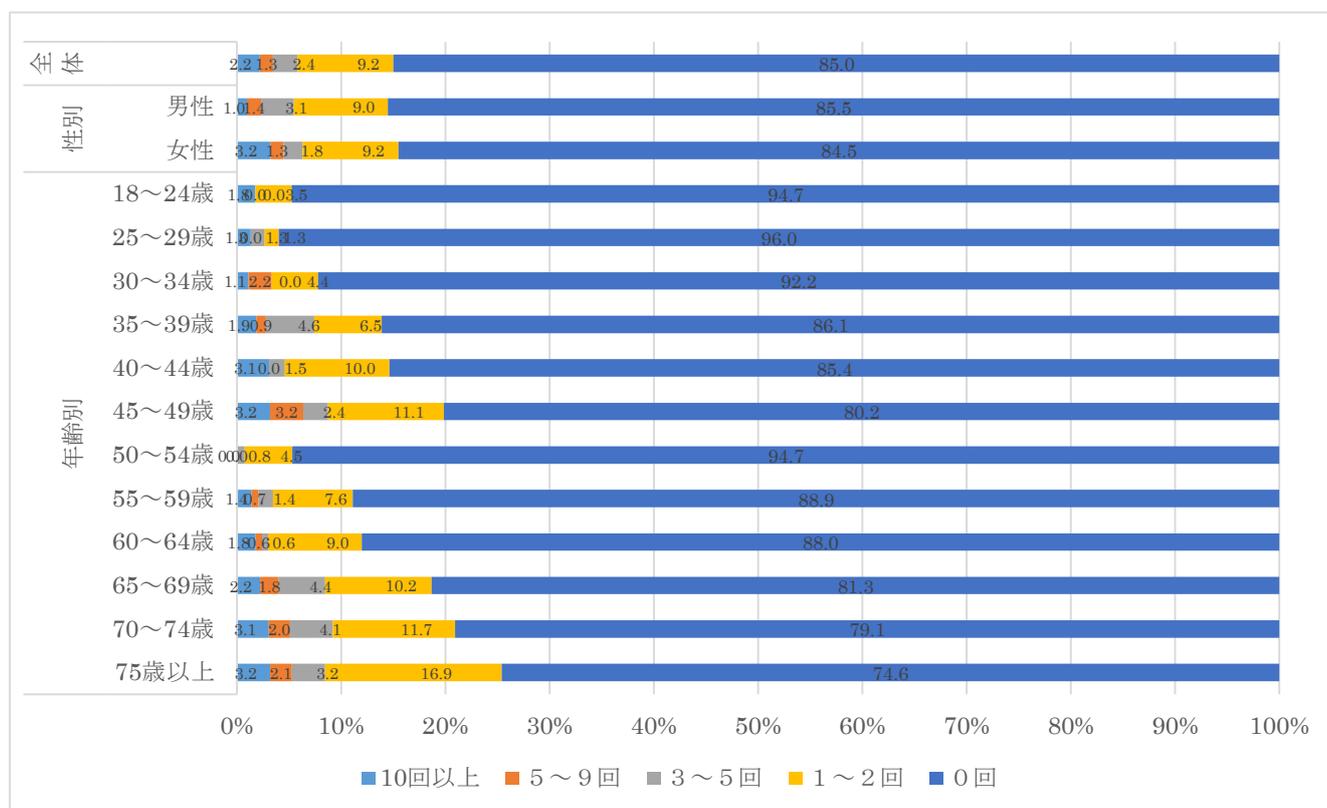
■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない

・スポーツ関連イベントの参加頻度について

スポーツ関連イベントへの年1回以上の参加頻度については、「0回」と回答した人が85.0%あり、逆に「10回以上」と回答した人は2.2%で参加者が固定傾向にあると考えられます。

スポーツ関連イベントの参加頻度

		回答数					構成比				
		10回以上	5～9回	3～5回	1～2回	0回	10回以上	5～9回	3～5回	1～2回	0回
全体		36	21	39	152	1,404	2.2	1.3	2.4	9.2	85.0
性別	男性	7	10	23	66	626	1.0	1.4	3.1	9.0	85.5
	女性	28	11	16	80	737	3.2	1.3	1.8	9.2	84.5
年齢別	18～24歳	1	0	0	2	54	1.8	0.0	0.0	3.5	94.7
	25～29歳	1	0	1	1	72	1.3	0.0	1.3	1.3	96.0
	30～34歳	1	2	0	4	83	1.1	2.2	0.0	4.4	92.2
	35～39歳	2	1	5	7	93	1.9	0.9	4.6	6.5	86.1
	40～44歳	4	0	2	13	111	3.1	0.0	1.5	10.0	85.4
	45～49歳	4	4	3	14	101	3.2	3.2	2.4	11.1	80.2
	50～54歳	0	0	1	6	125	0.0	0.0	0.8	4.5	94.7
	55～59歳	2	1	2	11	128	1.4	0.7	1.4	7.6	88.9
	60～64歳	3	1	1	15	147	1.8	0.6	0.6	9.0	88.0
	65～69歳	5	4	10	23	183	2.2	1.8	4.4	10.2	81.3
	70～74歳	6	4	8	23	155	3.1	2.0	4.1	11.7	79.1
75歳以上	6	4	6	32	141	3.2	2.1	3.2	16.9	74.6	



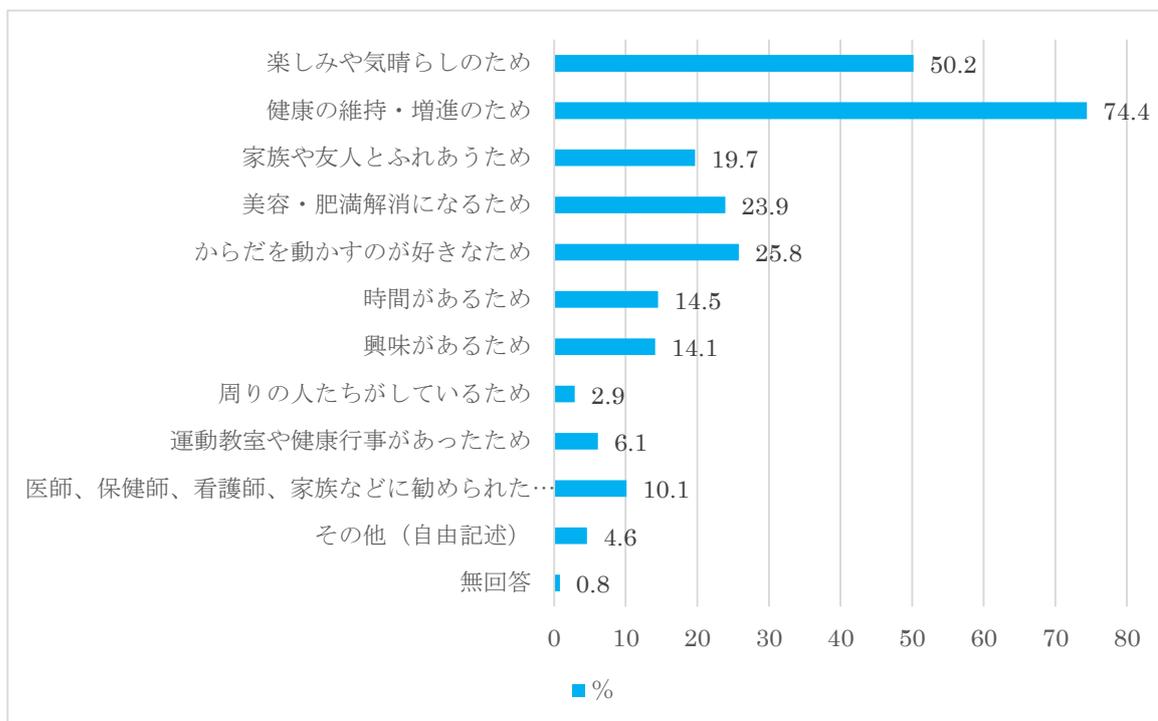
○「健康ながはま21策定に伴うアンケート調査」について【平成30年度実施】

・継続して運動をしている理由について

継続して運動している理由をたずねたところ、「健康の維持・増進のため」が74.4%、「楽しみや気晴らしのため」が50.2%、「からだを動かすのが好きなため」が25.8%の順となっています。

「あなたが運動をする理由を教えてください」との質問（複数回答可）

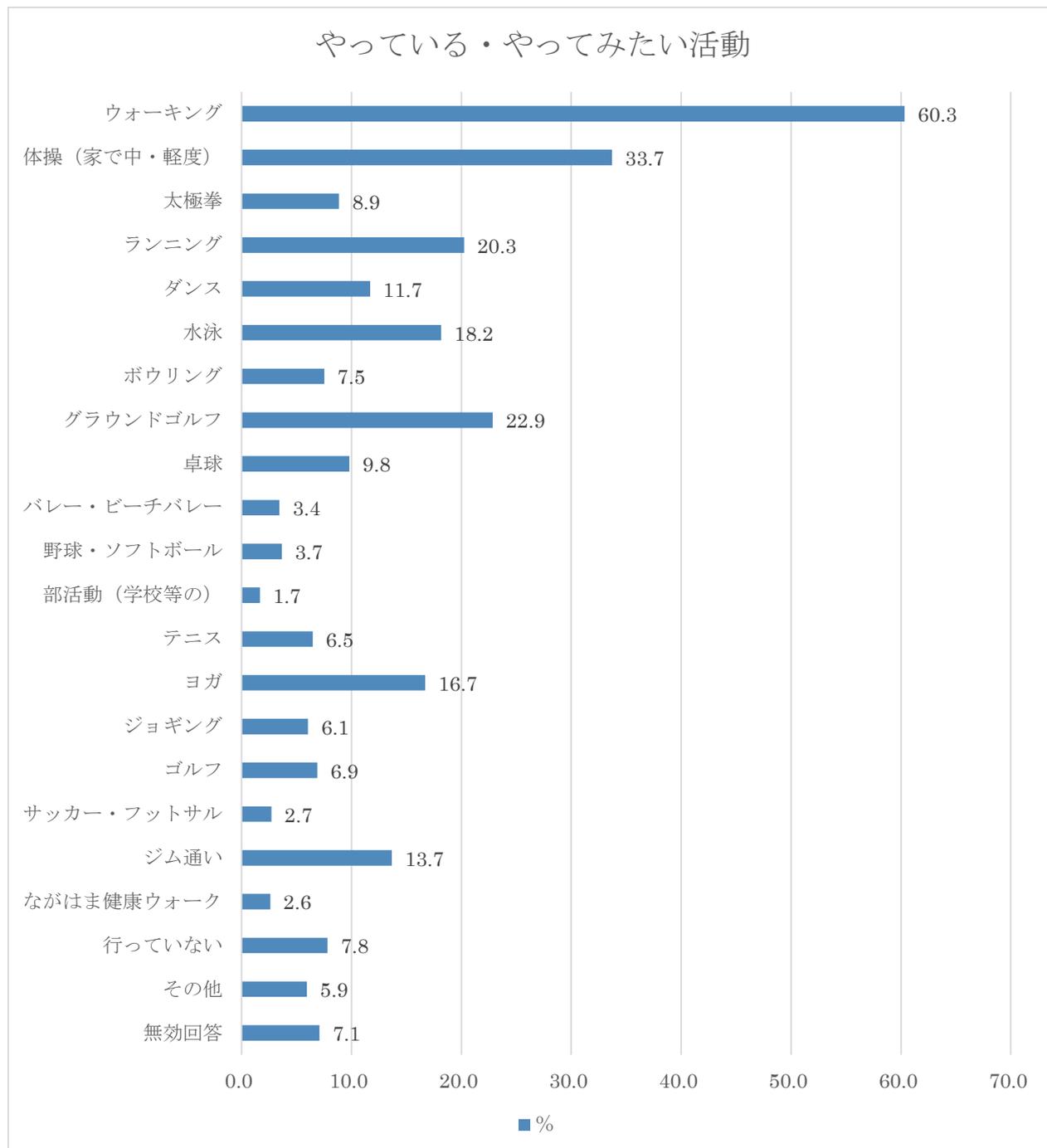
No.	カテゴリー	n	%
1	楽しみや気晴らしのため	239	50.2
2	健康の維持・増進のため	354	74.4
3	家族や友人とふれあうため	94	19.7
4	美容・肥満解消になるため	114	23.9
5	からだを動かすのが好きなため	123	25.8
6	時間があるため	69	14.5
7	興味があるため	67	14.1
8	周りの人たちがしているため	14	2.9
9	運動教室や健康行事があったため	29	6.1
10	医師、保健師、看護師、家族などに勧められたため	48	10.1
11	その他（自由記述）	22	4.6
	無回答	4	0.8



・やっている・やってみたい活動

やっている・やってみたい活動をたずねたところ、「ウォーキング」が60.3%、「体操（家で中・軽度）」が33.7%で、気軽にできるスポーツが多い半面、バレー、野球、サッカー等の団体競技については、低い状況です。

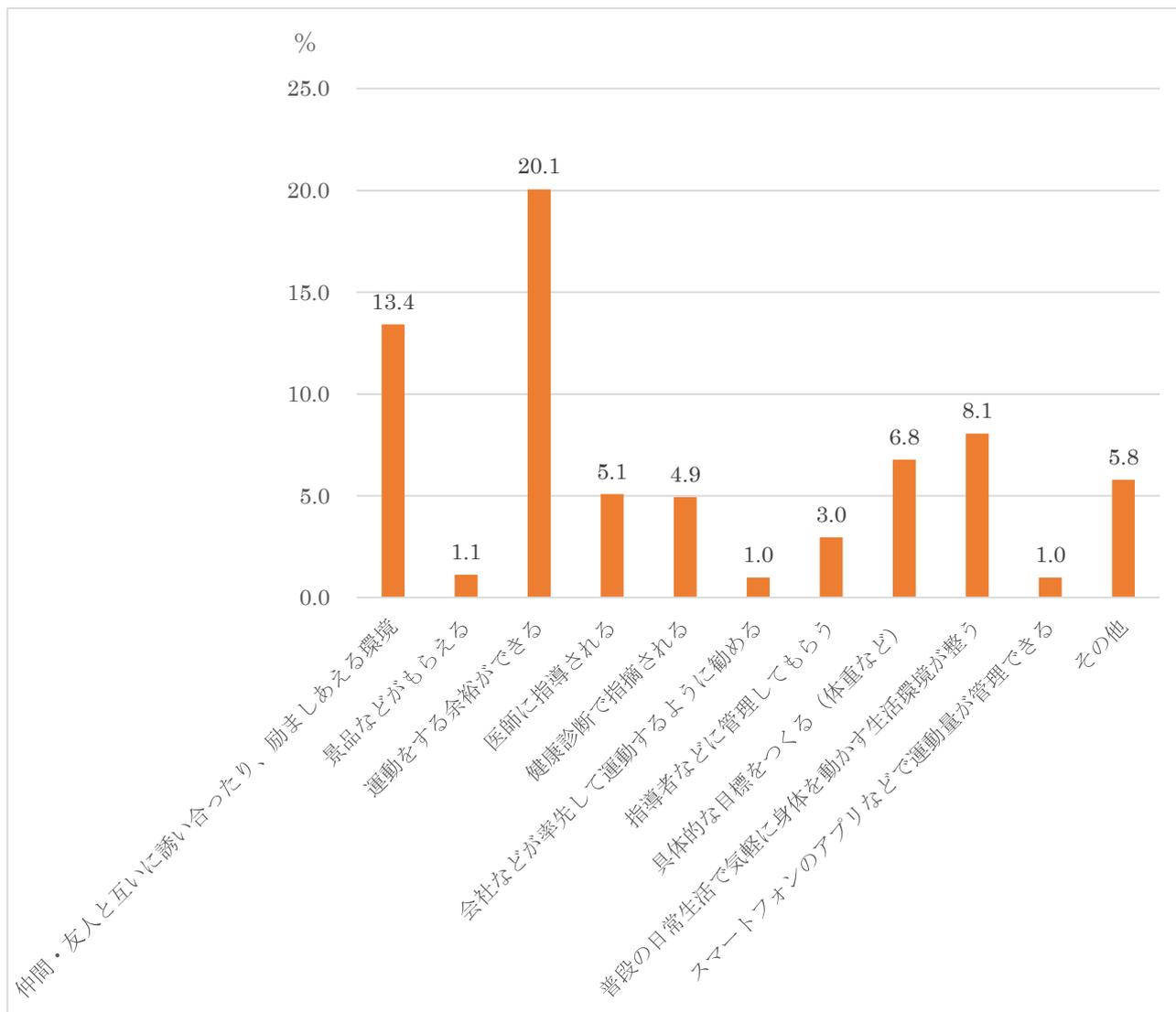
「あなたは次の活動の中で、やっている・やってみたいものはどれですか」との質問



• どうすれば運動しようと思うか

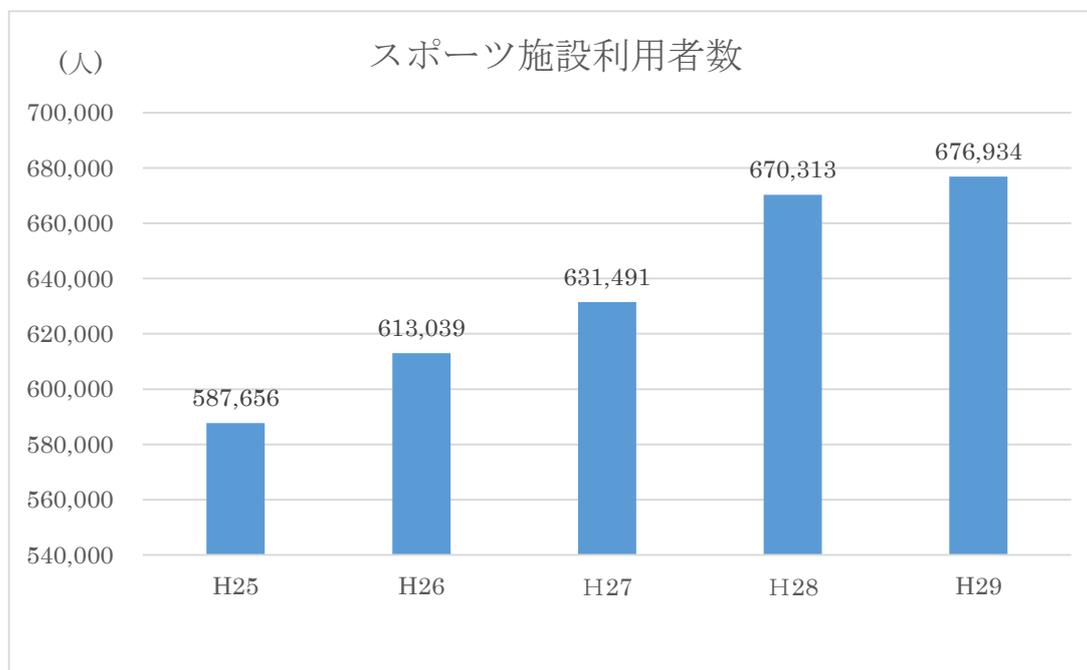
どうすれば運動しようと思うかとたずねたところ、「運動をする余裕ができる」が20.1%で最も高く、次いで「仲間・友人と互いに誘い合ったり、励ましあえる環境」の13.4%でした。忙しくて運動やスポーツにかかる時間が少ないことが推察されます。

「あなたはどうすれば運動しようと思うようになると考えますか」との質問



○スポーツ施設利用者数（学校開放事業除く）

長浜市スポーツ施設の利用者数は、平成 29 年度で市民体育館が 85,518 人、市民プールが 54,644 人、市民庭球場が 38,665 人と多くの皆さんに利用され、トータルで 676,934 人となっており、年々増加しています。



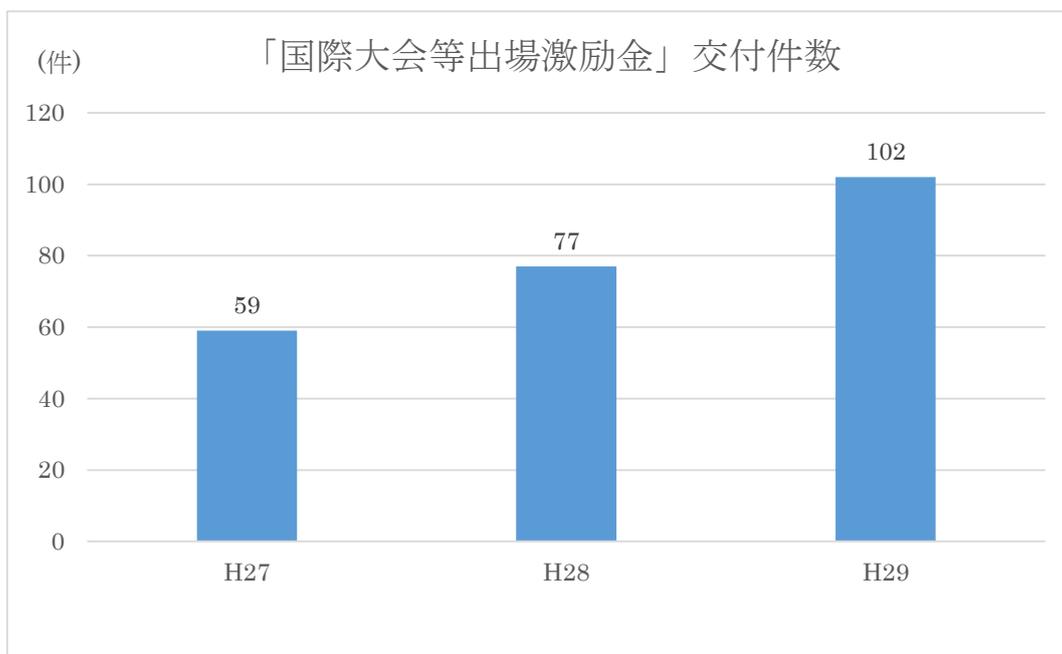
スポーツ施設利用者数（主な施設利用者数）

施設名称(スポーツ施設)	H25	H26	H27	H28	H29
長浜市民体育館	84,369	78,731	77,628	85,643	85,518
長浜市民プール	20,150	45,316	52,254	57,775	54,644
浅井ふれあいグラウンド	28,606	40,453	48,964	49,408	52,042
長浜市多目的競技場	38,214	30,232	29,162	37,949	39,184
長浜市民庭球場	11,996	1,871	6,759	31,667	38,665
サンドーム	22,036	23,647	22,201	23,265	23,209
長浜市レクリエーション広場	26,522	25,036	26,756	25,736	23,205
湖北体育館	21,285	20,614	4,083	23,729	22,736
木之本運動広場体育館	16,105	17,627	20,371	18,338	18,956
西浅井運動広場体育館	16,043	16,059	20,586	16,732	18,571
その他施設（小計）	302,330	313,453	322,727	300,071	300,204
合計	587,656	613,039	631,491	670,313	676,934

※長浜バイオ大学ドーム H29 利用者 162,100 人(スポーツ利用)  
 奥びわスポーツの森 H29 利用者 18,794 人(スポーツ利用)

○「国際大会等出場激励金」交付件数について

国際大会・全国大会・近畿大会・県大会等の大会に出場する方への交付件数は、年々増加しています。



○スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数（滋賀県観光入込客統計調査）

滋賀県観光入込客統計調査によると「スポーツ・レクリエーション」目的で本市を訪れた観光入込客数は 1,500 千人に満たない状況であり、今後、スポーツツーリズム等の推進による交流人口を拡大していくことが期待されています。

